

思いに応じて、くらしを創る



# CSRレポート 2013

2012年度 環境・社会報告書

2012年4月1日～2013年3月31日



**編集方針**：市民生活協同組合ならコープは、社会的責任経営の説明責任を果たすために2005年から「ならコープCSRレポート」を発行しています。

本報告書は、

- ならコープの社会的責任経営の取り組みを、組合員、総代、ならコープ役職員、子会社・関与法人役職員、取引先、行政、諸団体などステークホルダーの皆様にはわかりやすく、誠実に報告すること
- ならコープの地球温暖化防止自主行動計画がフォローアップの対象になることを踏まえ、事業責任者としての温暖化対策の姿勢、具体的なアクション、実績及び計画を明らかにすることを目指しています。

**報告対象期間**：2012年4月1日～2013年3月31日

**報告対象範囲**：本報告書では、特にことわりがある場合を除いては、ならコープの単体の組織と事業を記載対象としています。

**参照ガイドライン**：環境省「環境報告ガイドライン」、GRI「サステナビリティ レポーティング ガイドライン」

**発行時期**：毎年5月

**ならコープCSRレポート2013に関するお問い合わせ**：市民生活協同組合ならコープ 広報・経営管理部

TEL 0742-33-9516 FAX 0742-34-8060

## CONTENTS

トップメッセージ	2
生活協同組合とは	3
コーポレートガバナンス	4
そばに寄り添い、手を取りあう2012年度災害支援活動報告	5
自然と共に生きる、地域とともに育む吉野共生プロジェクト	7
組合員に確かな商品をお届けするために	9
信頼に応える商品事業	11
ならコープがあって良かったね、たべる、たいせつの取り組み	15
安心して暮らすことができる地域社会づくり	17
ステークホルダーとのコミュニケーション	20
人をたいせつにする、働きやすい職場づくり	23

### 環境活動報告

1. 事業活動における環境配慮のとりくみ	25
2. 組合員とともにすすめた環境保全活動	29
3. 環境マネジメントシステムの運用— ISO14001:2004	34
4. 2012年度に寄せられた主な環境情報	35
2020年に向けた新たな環境政策(要旨)	36
2012年度環境監査報告書	37
環境監査報告書への対応	38
第三者意見	39
アンケート	

### 組織の概要

# トップメッセージ

私ども市民生活協同組合ならコープは、2012年度末で奈良県内で24万8,687人、43%を超す世帯が加入される組織に成長し、組合員の皆様のお買い物ご利用結集によって供給高は370億円に到達することができました。この間、ご協力、ご支援、ご理解をいただきました関係各位に、心からお礼を申し上げます。

2012年度は、ならコープ創立38年目を迎え「第9次中期計画」の最終年度となりました。市民生協の社会的な責任を果たす視点から、微力ではありますが東日本大震災の被災地支援活動の取り組みを継続することができました。とりわけ、原発事故で深刻な影響を受けている福島支援企画として開催した「福島の子ども保養プロジェクト」では、福島県の子どもたち49人を奈良県関係部局、並びに福島県生協連様と東大寺様のご協力のもと大仏殿にご案内でき、奈良公園で鹿たちと遊んでもらって関西での思い出づくりに協力できました。また福島県農業の復興支援として土壌スクリーニング・プロジェクト（果樹園地・田畑・圃場の放射線量測定活動）には6組18人の役職員が参加させてもらいました。2013年度も引き続き、年15回開催予定の週末企画の岩手ボランティアバス派遣を含めて東日本大震災と、地元奈良県では紀伊半島大水害被災地を支援する活動を継続したいと考えています。

さて奈良県は、紀伊半島の豊かな大自然に包まれ、日本古来の歴史文化遺産にあふれた土地です。この地に、多数者生協を建設し、生活文化の花を咲かせようという奈良市民生協創設者たちの夢を引き継いでその実現に向けて「たすけあい協同の輪」を広げていきたいと思えます。昨年は、国際協同組合年でしたが、新たに設立された「奈良県医療福祉生協」の診療所開設と健康づくりの運動に参加できたことは貴重な体験になりました。加えて田原本町で7月14日から再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）を活用し、物流センターでの太陽光発電（売電）事業に参画できたことは、市民と地域主導による再生可能エネルギー普及に向けた展望を作り出す点で重要な成果となったと考えております。これからも、市民が地域社会の主役となって県下の北・中・南3つのエリアで「学びあい・知らせあい・広めあい」の地域社会のニーズをとらえて、生協活動が展開できれば素晴らしい貢献になると思えます。そして、これから社会変化の大きな流れに乗って市民生協を発展させることができるとの確信を大切に、「第10次中期計画」の“地域共生戦略”とりわけ自然との共生、生き物との共生、地域との共生を重視していきたいと考えます。

今後、確実に起こることが予想されている南海トラフ地震災害や台風災害等に備えた非常事態対応力を高め、災害に負けない強い生協づくりと協同組合間連携が課題となります。様々な事態に対応が可能になるように内部留保として積立金を備え、業務体制も整備していきたいと思えます。お陰様で奈良県並びに県下市町村との緊急時の物資供給協定による協力関係づくり（奈良県と33市町村と協定締結）が前進しました。さらに全奈良県市町村との協定締結を課題として追求してまいります。

最後に、吉野の森と水を守る活動は、協同組合提携をバックに「吉野共生プロジェクト」として発展させていく所存ですが、さらに高齢者・買物弱者の生活支援につながる新規宅配の開拓、買物が困難な地域や山間地域に対して移動販売車の運行を含め新たな商品お届けシステムを開発していきます。奈良県民・組合員から“ならコープがあって本当によかった！”と評価していただけるよう役職員一同、力を結集してまいります。ならコープは子会社である「(株)奈良コープ産業」、「(株)CWS」の2社と共にISO9001（品質）とISO14001（環境）を合せた「統合マネジメントシステム」による活動を推進しています。また高齢者福祉での地域社会貢献のために市民とともに設立した、社会福祉法人「協同福祉会」並びに、障がい者とともにつくっている「(株)ハートフルコープなら」の5者による「ならコープグループの経営理念」を統合し、奈良県民の皆さんへの貢献を深めてまいります。奈良県の消費者と組合員の皆様から、ならコープがあってよかったね！と喜ばれるグループづくりに全力をあげてまいります。

ここに不十分な取り組みではございますが、2012年度まとめとして「CSRレポート」をご報告申し上げますとともに、関係者の皆様方の忌憚のないご意見をいただければ幸いです。



ならコープ理事長

森 宏之

# 生活協同組合とは

生活協同組合は、「国民の自発的生活協同組織の発達を図り、もって国民の生活の安定と生活文化の向上に期することを目的（消費生活協同組合法）」とした消費者の協同組織です。市民生活協同組合ならコープは、近代的自我の確立を遂げた民衆・権利意識をもった国民である「市民」が協同して、事業と運動を通して自らの生活改善、地域の人々の暮らしと文化に貢献することを使命としています。



ならコープのシンボルマークは、話し合い、力を合わせる協同の輪をイメージしています。三つの輪を象徴した形は、「話と和と輪」「出資・利用・運営」「安心・安全・信頼」など生活協同組合の基本理念を表現しています。上昇を意味する楕円の傾きは、ならコープが組合員、職員、地域社会との確かな信頼関係のもとに、未来に向かう可能性と躍動感を表現しています。

## 2012年度マネジメント方針

### 私たちの使命(OUR MISSION) ~みんなで創ろう よりよい暮らしへ 想いをカタチに~

ならコープグループは、しごとと品質の向上と環境保全の活動を理念に関わるものと位置付け、安心安全の確保と持続可能な循環型社会の形成をめざし、地域社会とともに取り組みをすすめます。

3つのエリアによる組織運営に転換し、組合員と役職員が一体となりエリア単位で事業と組合員活動、行政や地域社会と連携をすすめ、「多数者生協」(50%を超える加入率)づくりをすすめていきます。

ならコープグループの事業活動、商品、サービスに関する重点項目について、技術的かつ経済的に可能な範囲で目的・目標を設定し、組合員ニーズへの対応や環境負荷の軽減と汚染の予防に取り組み、マネジメントシステムの継続的改善を図ります。また、事業活動に関わる法令、条例、受入を決めたその他要求事項を遵守します。

ならコープグループを構成する組織のトップは、方針に基づく品質目標・環境目的・目標を事業年度ごとに決定し、各部門及び階層で品質・環境目標が設定されることを確実にします。

#### 【品質】

1. 奈良県内の消費者と組合員から、「ならコープがあってよかったね!」といわれる生協をつくることに全力をあげます。
2. 奈良県内の消費者と組合員のために、生協の仲間やお取引先様との連携を進めて、安心安全の確保に努めた「コープ品質」の商品・サービスを提供します。
3. 奈良県内の消費者と組合員のために、より正確で正直な表示を実現し、くらしに役立つ情報の提供に努めます。
4. 奈良県内の消費者と組合員の「声」にしっかり耳を傾け、「声」の実現のために絶えざる改善を続けていきます。

#### 【環境】

1. 環境関連の法令、条例、受入れを決めたその他の要求事項を遵守します。
2. 「環境に配慮した商品」の普及に取り組むと共に、容器包装の削減を推進します。
3. 地球温暖化防止対策としてCO2排出量の削減をめざし、事業活動に伴う省資源・省エネルギーをすすめます。
4. 事業系廃棄物の削減と再資源化をすすめます。
5. ならコープグループの施設での環境に配慮をした改善を推進します。
6. 組合員による環境保全活動を積極的に支援します。

#### 【コンプライアンス】

1. ならコープグループは、事業活動に関連する法令のみならず、自ら定めた自主行動指針の精神を遵守します。
2. ならコープグループは、すべての人格を尊重し、高い倫理観と責任感を持ち、誠実に職務を行い、地域社会に積極的に参加し、社会の信頼を得るようにします。

このマネジメント方針は、ならコープグループ内外に公表します。また方針の具体化をはかり、実現のために全役職員・社員及び事業所内に所在する協友店並びに委託先の社員への周知を行います。

2006年 8月14日制定

2012年 4月 1日改定

市民生活協同組合ならコープ 専務理事 小田 剛之  
株式会社奈良コープ産業 代表取締役 菅 正光  
株式会社CWS 代表取締役 中村 和次

# コーポレートガバナンス

## ●総代会

最高議決機関である総代会は、組合員の代表として選出された510人の総代でもって開催されます。総代は機関運営の要であり、総代への情報開示が何にも増して重要と考え、通常総代会とは別に、春にエリア別総代会議と地域別総代会議、秋には地域別総代会議をそれぞれ開催し、新しく総代になられた方を対象に総代オリエンテーションを開催しています。また、毎月「総代通信」を発行して、日常のコミュニケーションの充実につとめています。

2012年度の第40回通常総代会は、467人(委任・書面議決含む)の総代の出席のもと、すべての議案が可決・承認されました。その内容は、機関誌「あをがき」を通じて、組合員にお知らせしています。

## ●理事会

総代会の議決に基づく業務の執行や運営に関する重要事項を決定する理事会は、非常勤組合員理事19人、教育関係者、企業経営者など学識経験者理事8人、理事会で選任した生協の代表者として業務を執行する代表理事(理事長、専務理事)を含む常勤理事3人で構成し、経営の健全性と透明性を確保しています。また、事業環境の変化に即応するために無店舗事業、店舗事業、連帯事業、商品・事業戦略フロアに執行役員を配置しています。

## ●監事

非常勤組合員監事2人、学識経験者監事2人、常勤監事1人の5人が監事として、理事の業務執行を監査しています。

## ●監査

監査は、監事監査のほか監査法人の会計監査を実施しています。監査法人の会計監査では、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案または損失処理案、注記、及び決算関係書類の附属明細書についての監査を委嘱しています。あわせて、内部監査担当を配置し、財産の状況及び業務活動、ならびに諸規程、諸手続きを日常的に独自に監査し、経営の合理化、能率の増進及び財産の保全等の経営管理を促しています。

## ●各委員会

### 役員人事委員会

常勤役員の報酬、処遇および登用と、学識経験者理事及び常勤理事の選考を審議します。

### 役員報酬等検討委員会

役員の報酬、処遇に関する規程等を検討し、理事長に答申します。

### 理事会経営小委員会

学識経験者理事で事業経営に関する事項を審議します。

## コンプライアンス

組合員はもとより地域の消費者から信頼され、生協の社会的責任を果たすためには、何にもまして「コンプライアンス経営」を貫くことが必要です。そのため、当生協および子会社である(株)奈良コープ産業、(株)CWS、(株)ハートフルコープなら※4は「ならコープグループ倫理法令遵守方針」を定めて、ならコープグループで働く者一人ひとりが自覚を持って、消費者・組合員の暮らしに貢献し、取引先との信頼構築に努めています。

### コンプライアンス委員会

理事会の諮問委員会として、学識経験者理事(弁護士)を委員長に、税理士(外部学識者)、理事、職員で構成しています。2012年度は倫理法令遵守方針に基づく取り組みの進捗点検、ヘルプラインへの相談状況、コンプライアンスや個人情報保護、情報セキュリティを議題に2012年度は4回開催し、審議しました。

### ヘルプライン(内部・外部相談窓口)

ならコープグループでは、コンプライアンス経営を徹底するために、全役員・社員が組織の行動規範とヘルプラインを示したコンプライアンスカードを携帯しています。ヘルプラインは内部相談窓口と外部相談窓口を設け、外部相談窓口では、お取引先も利用できるコンプライアンス相談窓口を併設し、公益者通報保護法の観点から弁護士に対応頂いています。2012年度は、内部相談窓口に8件(前年9件)、外部相談窓口に0件(前年1件)と「組織の自浄機能」として有効に働いていると判断しています。

# “たすけあい ささえあい わかちあい” そばに寄り添い、手を取りあう 2012年度 災害支援活動報告

東日本大震災からすでに2年が経過しましたが、いまなお多くの被災者が避難生活を送るなか、復興住宅や除染作業は遅れ、被災者の生活再建は進んでいません。ならコープでは、2012年度も組合員募金やボランティア活動とともに、経営拠出による人的・物的支援を展開してきました。

## <2012年度 ならコープ災害支援活動>

2012年4月1日～2013年3月31日までの募金及び寄付金の状況 (単位：円)

	募金総額	運営費用・送金額
1. 東日本大震災目的別募金		
①「福島の子ども保養プロジェクト in かんさい」	2,693,213	
②「あんしん福島募金」	3,153,901	
2. 運営費用及び募金送金先		
①「福島の子ども保養プロジェクト in かんさい」運営費用		1,279,319
②日生協「福島の子ども保養プロジェクト」送金		1,413,894
③「あんしん福島募金」送金		3,153,901
合計	5,847,114	5,847,114

2012年4月1日～2013年3月31日までの寄付金の執行状況 (単位：円)

	寄付金総額	寄付先
1. 寄付金		
① 2012年度「災害支援活動積立金」	29,211,409	
2. 寄付金拠出先		
① 日本生活協同組合連合会 あんしん福島募金		5,000,000
② 九州北部豪雨災害見舞金(日生協、コープおいた、エフコープ)		400,000
③ 京都府南部豪雨災害見舞金(京都生協、おおさかバルコープ)		100,000
④ いわて生協の移動販売車両購入支援		3,000,000
⑤ 福島県生協連 土壌スクリーニングシステム寄贈		3,652,000
⑥ 土壌スクリーニング支援活動費用		854,482
⑦ ボランティアバス運行費用		5,255,534
⑧ 紀伊半島大水害復興支援		7,068,604
⑨ 交通費、その他		3,880,789
合計	29,211,409	29,211,409

### 福島の子ども保養プロジェクト in かんさい

「福島の子ども保養プロジェクト in かんさい」は、福島の子どもたちがのびのびと遊び、笑顔を取り戻すための企画として、奈良県生協連及び大阪府生協連、コープしがと連携して実施し、49人の子どもを受け入れました。様々な団体からも多くのご支援をいただき、また、組合員からも2,693,213円の募金が寄せられ、1,279,319円を運営費用として活用させていただきました。残金1,413,894円につきましては、日本生協連の「くらし応援募金：福島の子ども保養プロジェクト」に送金しました。



### いわて生協へ移動販売車を寄贈

いわて生協は、日本生協連からの支援のもと、2012年6月から移動販売車の運行を宮古市で開始しました。釜石地域・気仙沼地域でも運行をスタートさせていく意向が示されたことを受け、移動販売車購入支援として8月に300万円を「災害支援活動積立金」から拠出しました。



### 福島県土壌スクリーニング支援活動

福島県の安心・安全な農産物の生産・販売に向け、全圃場の放射性物質による汚染状況を把握し、営農指導につなげることを目的とした土壌スクリーニングに、職員18人がボランティアとして参加しました。



また、この取り組みを支援するため、福島県生協連に対し「GPS内蔵土壌スクリーニングシステム」2台(合計3,652,000円)を寄贈しました。

### 岩手ボランティアバス企画

いわて生協、遠野被災地支援ボランティアネットワークNPO法人遠野まごころネットの協力を得て、3生協(おおさかバルコープ、大阪よどがわ市民生協、ならコープ)合同で「岩手ボランティアバス企画」を17回実施し、186人の参加がありました。



ボランティアバスでの主な活動は、陸前高田市上長部地区で、現地の方といっしょに畑作業のお手伝い、グランド整備、側溝整備、炊き出し等です。現地視察や被災地の語り部から直接お話を聞くなど、被災地の実情をありのまま様子を見聞きました。「見て聞いて感じて伝える」、「微力は無力ではない」を合言葉に中学生から74歳の方までと一緒に活動するという生協ならではの活動が行われています。

### 3.11チャリティー企画の開催

東日本大震災発生から今に至る被災地の状況を実感し、これまでの支援活動の軌跡と活動する人の思いを共有することや奈良の思いを現地に届けることを目的に、2013年3月9日、コープみなしで「3.11忘れない! 東日本大震災から2年 奈良から元気を届けよう!」をテーマにチャリティー企画を開催しました。



東北被災地からのビデオレターの上映、みやぎ生協組合員理事による「東日本大震災でのみやぎ生協の取り組みと復興の状況」をテーマとした講演会やリレートーク、岩手ボランティアバス参加者交流会、ひまわりプロジェクト、クラフトコーナー（南エリア委員）、東北すごろく、紙芝居、おしゃべりカフェ・お茶席、被災地へ届けるビデオ撮影などを実施し、145人の参加がありました。

### 組合員と職員の東北お手伝いショップ

ならコープの組合員と職員の有志が「ちょこボの会」を立ち上げ、「東北お手伝いショップ」の開催、みやぎ生協の「ふれあい喫茶」へお菓子を送る活動など組合員、役職員有志40



人によるボランティア活動を展開しています。仮設住宅のお母さんたちが、ミシンで小物を作るための材料になる「生地集め」などの活動も行っています。組合員の協力を得てコープおしくま、ディアーズコープいこま、コープ朱雀、コープ学園前では、定期的に「東北お手伝いショップ」が開催されています。

「東北お手伝いのつどい」には、南三陸町の仮設住宅からお2人の方にご参加いただき、震災のときから今までの現地の様子を生々しくお話しいただきました。

### 紀伊半島大水害復興支援活動

紀伊半島大水害からの復興と南部地域の振興を図ることを目的に、その支援金として災害支援活動積立金から500万円を奈良県に寄託することとし、2013年3月26日稲山一八奈良県副知事（当時）に、森理事長がお渡ししました。



また、11月24日たべる、たいせつフェア2012（コープみなし）では、十津川村の特産品を紹介するブース出展、北海道新十津川町から来協した指定産地米「CO・OPゆめびりか」生産者・ホクレンの皆さんとともに、昼食交流会などを実施しました。



### 安心して住める「福島」を取り戻すための取り組み

日本生協連が福島県生協連からの要請を受け、全国の生協に「安心して住める『福島』を取り戻すための活動」への協力を要請したことを受け、ならコープも組合員に「安心して住める福島を取り戻すための署名」と「あんしん福島募金（食品の検査体制の充実を図り、食の安全を守るための検査機器30台の購入への支援、内部被ばくを検査するための装置2台の購入への支援）」を呼びかけました。



「安心して住める福島を取り戻すための署名」は、8月末までに12,836筆が集まり、9月に福島県生活協同組合連合会に送付しました。また、「あんしん福島募金」は、2013年3月31日現在、3,153,901円が寄せられています。組合員の皆さまご協力ありがとうございました。

## 災害時における物資供給等に関する協定締結と事業継続計画（BCP）

2013年3月末までに、奈良県と33市町村が協定を締結できていることは、ならコープが38年間、奈良の地で多数者生協の建設をめざして日常的に積み重ねてきた生協の事業と運動に対する信頼感と社会的役割が奈良県民に評価されている証しでもあります。

災害発生時に避難が必要な地域住民に対応できるように、事業継続計画（BCP）に基づいて各事業所の設備の見直しをすすめ、各自治体には協力関係の強化を働きかけています。

ならコープが社会的な役割を果たすためには、災害が発生した場合の救援及び生活再建について協定を締結した自治体と協力関係を構築するとともに、商品取引先との調達の流れを確実なものにしておくことが責務となります。

今後、防災の分野だけにとらわれず各自治体のニーズを掴み、ならコープとの事業連携を提案し行政との繋がりを強固なものにしていきます。



“たすけあい ささえあい わかちあい”

# 自然と共に生きる、地域とともに育む 吉野共生プロジェクト

奈良県吉野地域の自然環境を保全し、地場産業振興と地域経済活性化に取り組みます。

## 吉野共生プロジェクトとは



「ならの元気は、吉野から」を合言葉に、吉野の自然環境の保全と、産業振興に寄与する活動を行っています。

吉野共生プロジェクトには4つの柱があり、組合員参加型のさまざまな活動が進行中です。

1. 吉野の森と水を守ります。
2. 吉野の自然文化と歴史を継承します。
3. 吉野の産業振興に寄与します。
4. 吉野地域の組合員や住民との触れ合いの場を増やします。

また「CO・OP奈良県産ひのひかり」を通じた「吉野の森と水を守るための募金活動」は、組合員が利用することで、

## 2012年度の取り組み

### 吉野の森と水を守るための募金

4月27日、「地産地消をすすめる会」活動報告会で「吉野の森と水を守るための募金」贈呈式を行いました。募金活動は奈良県産米のひのひかりを育む吉野川の水源を守ることを目的に平成21年度から取り組み、「CO・OP奈良県産ひのひかり」販売量1kgにつき1円をJAならけんとならコープが拠出します。2011年度募金額985,914円を奈良県森林組合連合会に贈呈し、大淀町の植樹費用に充当しました。



### 第23回「アースデー2012 in なら」

第23回「アースデー2012 in なら」は、奈良県文化会館前広場で開催し、約2,600人の参加がありました。「いまこそ吉野共生・ならの元気は吉野から!」をテーマに五條市市長、十津川村村長、野迫川村村長、奈良県地域振興部、森理事長によるリレートークに160人の参加がありました。広場では、吉野地域物産の販売や環境保全活動助成団体による様々な体験コーナーなどが行われ、小雨にもかかわらず、終日にぎわいながら環境について考える場になりました。



### 吉野川分水ツアー

7月30日「地産地消をすすめる会」主催で、「吉野川分水ツアー」を開催し親子24人が参加しました。源流学の施設川上村「森と水の源流館」を見学をしながら親子で学ぶ機会になりました。



### 大淀町での里山の取り組み

大淀町のNPOと協力して実施した「古代米を作ろう! 里山で遊ぼう!」は、27家族89人が参加。6月に田植え、7月に竹工作とオカリナコンサート、9月に樹木観察、10月に稲刈り、11月に脱穀とお餅つきなど、延べ380人が参加しました。







## 吉野共生プロジェクトの目指すもの

森林の保全と再生に参加できる取り組みです。

**産業振興を進める取り組み**では、吉野地域の特産品を紹介する物産展を行うなど、地域の産業振興にも力を注ぎ、店舗に吉野地域の観光パンフレットを設置して、観光誘致の支援もおこなっています。

「人と人とのつながり」をたいせつに、「組合員のつどい」を積極的に開催し、天川村・野迫川村・十津川村・東吉野村・五條市大塔町などの地域を訪問し、交流を行いました。

### 「創る“なら”大和」構想

「食べる“なら”大和」の開発と普及などの食品や食料自給率にかかわる分野から、雇用・再生可能エネルギーの開発などの産業分野へ。そして医療・福祉・介護など、奈良の地域の自立に向けた運動を構想し、その具体化を目指します。



### 吉野共生プロジェクト推進委員会

事業と活動の双方を進展させるため、関係者間で連絡調整を積極的にはかる吉野共生プロジェクト推進委員会を設置し、価値認識を深めて多様な企画を円滑に実行できるようにしています。今後各地域と取り組みを進め、奈良県民へ広く訴えていきます。



### 吉野の森と水を守るための連携協定による、植樹活動

大淀町、奈良県農業協同組合、奈良県森林組合連合会、ならコープが連携し里山の再生を行う活動は、7月29日に関係者30人が第1回の植樹分の夏季下草刈りを実施しました。また、11月11日第2回大淀町植樹祭を開催し、小雨降る中105人が「ヤマボウシ」「イロハカエデ」など4種類の広葉樹80本を植樹しました。



### 「絆の森整備事業」の取り組み

「絆の森整備事業」は5年目の取り組みとなり、黒滝村の里山で広葉樹の植林と除伐や枝切り作業など、山の手入れを地元関係者と協力して実施しました。また、10月20日に21人が林道の整備や除伐を実施し、3月23日には松の植林とまいたけの植菌作業を実施し、10家族31人の参加がありました。



## 吉野地域の活性化と維持、保全、協力、支援について

1. 奈良県の南部振興において、県内の協同組合や取引先と連携し、吉野材や再生可能エネルギーの分野で行事や交流企画などを展開していきます。
2. NPOや地元関係者と協力して取り組んできた「絆の森整備事業(黒滝村)」、「里山で遊ぼう(大淀町)」「吉野川分水ツアー」を継続しながら、市民が森林・吉野川を守る取り組み機会を広げ進めます。
3. 奈良県全自治体との災害時緊急物資協定締結をめざします。また、防災分野以外でも、自治体との協力関係性を構築します。

# 組合員に確かな商品をお届けするために

ならコープでは組合員に確かな商品をお届けするために、リスク分析手法に基づき独自のフードセーフティシステムを構築し取り組んでいます。

## フードセーフティシステムとは

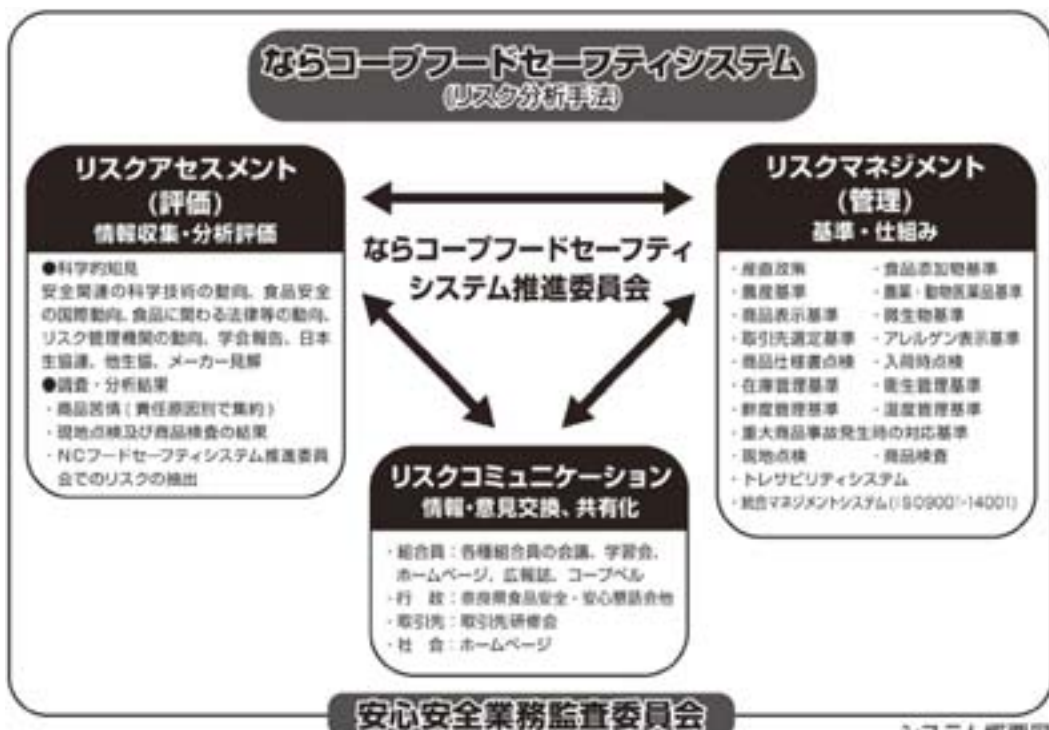
食品の原料から消費までの全過程で発生するリスク評価を行い、項目を決めて、それを継続的に管理・監視するとともに組合員や取引先などへの情報提供・意見交換を行うシステムです。



2012年8月 榎原市子ども消費者スクール

ならコープフードセーフティシステムは、ならコープ独自の食品の安全確保システムです。食品安全基本法の第11条～第21条「施策の策定に係る基本的な方針」で取り上げられているリスク分析手法の概念をベースとして構築されました。実践にあたっては、ならコープグループ統合マネジメントシステム (ISO9001:2008、ISO14001:2004) に基づき推進しています。

まずは起こりうるリスクについて、最新の科学的知見 (国の見解、日本生協連やコープきんきの見解、専門家の文献等) を参考に分析・評価し、「商品政策」をはじめ各種独自の基準や仕組みを作り実践してきました。またこれらの政策や基準は、最新の評価に基づき適時見直し、改定しています。さらにこれらの取り組みや新たな施策を組合員、消費者をはじめお取引先の食品企業にも開示・協力を願い、また国や行政に対して要請することにより情報提供・意見交換をすすめています。





# 安心安全をお届けする義務として

## 食の安心安全確保のための取り組みについて

組合員に確かな商品を提供するため、「商品事業に関する自主基準」等に基づいて独自の検査体制を整え、無店舗・店舗で取り扱う前の新規商品検査と供給している商品の抜取検査、グループ会社の(株)奈良コープ産業で製造している商品の検査、その他ならコープ産直たまごや鶏舎の拭取り検査等を行っています。

2010年7月にコープきんぎ事業連合と大阪いずみ市民生協が共同で運用する商品検査センター“コープ・ラボ”が和泉市に開設されました。ならコープの商品検査は、コープ・ラボの開設によって主に無店舗独自取扱商品や店舗商品に集中することができるようになり、より幅広い商品で実施できるようになりました。

### 2012年度は12,700検体の微生物検査と7,146検体の理化学検査を実施しました。

なお、理化学検査ではNaIシンチレーションスペクトロメータ※1、NaIシンチレーションサーベイメータ※2で放射性物質検査を実施しています。2012年度はNaIシンチレーションスペクトロメータで761検体、NaIシンチレーションサーベイメータで930検体の検査を実施し、いずれも検出限界値以下でした。また、検査結果は毎月「商品検査&声だより」、ならコープホームページの「商品検査だより」で毎週お知らせしています。

※1：NaIシンチレーションスペクトロメータ

遮蔽体付検出器で核種を特定できるもの：ヨウ素131 セシウム134 セシウム137を測定

※2：NaIシンチレーションサーベイメータ

遮蔽体無しの持ち運びできる機器：ガンマ線総量を測定

(単位：検体)

	無店舗新規	無店舗抜取	店舗新規	店舗抜取	出荷検査	保存検査	その他	合計
微生物検査	1,188	3,240	4,340	2,828	354	38	712	12,700
理化学検査	293	3,681	2,390	754	0	0	28	7,146

**お取引先点検**は、お取引先の合意のもとに確認した「商品の仕様書内容」が、日常の品質衛生管理としての確に実施されているか否かを外部の検証業務の一環として行うもので、その結果はお取引先にとっても有用な情報となります。工場の衛生状態、防虫管理状態、薬剤管理状態、仕様書の確認等を実施し、必要に応じて改善を要請しています。また、検査結果や商品苦情等から、再発防止策が実際に実行されているかどうかを主に点検しています。2012年度は、77社98回のお取引先点検を実施しました。

**食品の原料・産地偽装問題**を受け、リスク対応としてお取引先を評価もしくは再評価する制度を整備しています。組合員からの商品苦情や重大な商品事故、商品検査やお取引先点検の結果等によって、食品の安全に対する姿勢や生産能力を評価する基準を設けて、3ヵ月ごとに購買先(再)評価会議を開催しています。評価結果に基づいて改善を要請し、それでも十分な改善が見られない場合は商品取り扱い停止等の措置を講じています。また、特に産地の偽装などがおこなわれやすい商品群は評価の頻度を高めて、産地偽装や不適正表示の防止を図っています。2012年度は予防的な取り組みをすすめたことによって、商品苦情件数が2,723件(前年比98.8%)となり、発生率でも累計で20.8ppm(前年21.0ppm)と減少しました。



# 信頼に応える商品事業

ならコープは、消費者の権利を尊重し、確かな商品と確かなサービスを提供することを商品事業の使命としています。奈良県内の組合員のくらしが向上するように、商品事業の基本的な考え方や指針を定め、確かな商品事業の展開のために制度や基準を整備しています。



## (1) 商品政策に基づく商品事業

当生協の商品政策では、「組合員ニーズの実現」「ライフスタイルや社会環境の変化への対応」「商品の開発や表示・表現に対する組合員の参加、意見の反映」「消費者、組合員の権利の尊重」を目的に、自主基準や必要な制度を定めています。商品政策や政策に基づく自主基準は、最新の科学的知見(国の見解、日本生協連・コープきんき事業連合の見解、専門家の文献等)の評価に基づいて適時見直し、改定しています。

## (2) 組合員参加で、商品開発を行いました。

2012年度7月から始まった「エリア開発商品」活動が、各エリア会・エリア活動交流会議などで行われました。各エリアの組合員が、工場を訪問するなどしてお取引先の担当者も交え、半年間協議を重ねました。\*試行錯誤の結果、北エリア「4種のチーズDEパン」、中エリア「奈良県産金ごま入り 大和のあられ」、南エリア「奈良県産金ごま使用 ごま団子」が誕生しました。



### 【商品事業に関する自主基準】

- ① 商品取扱い基準  
(コープ商品・産直商品とNB商品)
- ② ならコープ産直政策
- ③ ならコープ産直基準
- ④ 食品添加物に関する自主基準
- ⑤ 遺伝子組換え食品の表示についての基本対応
- ⑥ アレルギ物質表示についての基本対応
- ⑦ 環境ホルモン問題についての基本対応
- ⑧ 容器包装指針(容器包装ガイドライン)
- ⑨ ならコープ商品の開発と廃番の考え方
- ⑩ 取り扱い商品の微生物検査基準
- ⑪ ならコープ環境配慮商品基準
- ⑫ 重大商品事故発生時の対応基準
- ⑬ 商品の交換・返品基準
- ⑭ 輸入食品の考え方





## お取引先との連携

### 産消交流の取り組み

ならコープネットを中心に産地・工場見学が活発に開催され、255企画6,047人が参加し、生産・製造工程の見学・学習・交流を行いました。

また、10月・11月には「たべる、たいせつフェア」を店舗で開催し、商品学習・商品試食などに協力いただきました。

また、ならコープとお取引先がある企業・生産者の会「ならコープ共栄会」と連携し、5月「商品展示・試食会」(けいはんなプラザ)を開催、2013年2月には、「産直協議会・産直交流会2013」を開催しました。



### ならコープの産直

2012年度のならコープ産直商品は供給高で21億9,600万円の利用がありました。また、取り扱いは105品目(2011年度101品目)、提携先は63団体に広がり、適正農業規範に基づく点検は48団体、残留農薬検査は162検体行いました。



## 商品表示に関する取り組み、お取引先と協働の取り組み

ならコープ10店舗の農産、水産、畜産商品の表示方法や、表示内容に問題がないかを品質保証部門の職員が日常的に点検を行っています。品質保証部門による表示点検指導は全店でのべ395回実施しました。

食品の安全に対する施策や意識の向上を目的に、「お取引先研修会(第8回)」を10月に開催し71社97人が参加しました。今回はHACCP手法の実践報告の事例から食の安全確保の取り組みについて学びました。

また、7月と11月に奈良県工業技術センター、(社)奈良県食品衛生協会との共催で、奈良県内の食品企業を対象にし「こうすればHACCPが導入できる」を開催し、それぞれ40人を超える参加がありました。次年度からは研究会として立ち上げることを目指し、今後も官民一体となった取り組みを行うことで、奈良県内の食品企業の積極的なHACCP手法の導入・普及をはかり、奈良県版HACCP認定制度や奈良県食品衛生管理施設登録制度などの発足をめざしています。



# 信頼に応える商品事業

## コープあったか便の取り組み

コープあったか便は、2009年10月17日からコープおしくま・コープ学園前から開始しました。

『店舗で買物したいけれど』『たくさん買ったけれど』『買物にいきたくても遠くまで買物にいけない』などの声を受け止め、ならコープがめざす『組合員が生涯に渡り、ならコープを利用し続けられる』ように事業を立ち上げました。

コープあったか便は、店舗で購入した商品を組合員の自宅などへお届けする「ご利用商品の配達」と、電話・FAXなどから注文した商品をお届けする「買い物代行のサービス」があります。冷蔵・冷凍の食品も含め、店舗の全商品が対象です。

1日の利用件数は、2009年度(5.1件・3店舗) 2010年度(8.6件・7店舗) 2011年度(11.7件・全店舗) 2012年度(14.8件・全店舗)と前年から26%増加しました。また、1日の供給高は2011年度約8万円から2012年度は約10万円へ23%増加しました。年間供給は約3.8億円に成長しました。

## いこいこシニアデーの取り組み

「高齢者にも心のこもったサービスができないか」の想いを込めて、毎月15日に65歳以上の組合員を対象にご利用金額から5%引きが受けられるサービスを12月から開始しました。

2013年3月現在、登録人数は5,935人となり、平均ご利用単価は3,432円と、通常の平均利用額の1.5倍もあります。

『今までは家から一番近いスーパーで買い物していたけれど、コープあったか便の配達が無料で受けられるから、今ではコープのお店を利用するようになりました』などの声が寄せられ、<sup>くち</sup>コミで大きな広がりになりました。

さらに2013年4月1日からいこいこシニア会員は、いつでもコープあったか便の利用手数料が無料になるサービスも開始しました。



## こんな声が組合員から届いています。

毎月15日は必ずコープで買物するわ



コープあったか便が無料だから、持って帰る心配なくともいいから安心して買物できるわ

以前に、自転車で子ども(2人)と買物に行きたくさん買いました。その時、購入商品をカゴに入れ、子どもを自転車で乗せて歩いていたら、大型トラックが来て自転車ごとこけました。幸い子どもは擦り傷ですなのですが。あの時、コープあったか便みたいな配達サービスがあったらと思いました。今は便利に利用しています。

昨年に手術をしてから外出が億劫になり、足もだんだん動かなくなって、ヘルパーさんや嫁に買物をしてもらっていましたが、人に頼むのは気を使うので買物代行サービスを利用しています。選んでいただいた商品も日付が新しく、新鮮なもので喜んでます。



## 全店舗に地産地消(奈良県内産)売場を配置

地産地消売場は、奈良県内産の産直農産物、提携県内産地農産物、地元農家の直売農産物があります。2004年8月コープ学園前の直売農産物取り扱いから始まり、2010年4月コープいまごから地産地消売場へと拡充し、全店舗に広まりました。

2012年度の全店舗供給高は約5億円(関連品含む)に到達し、農産部門の約3割を占めました。登録農家は2004年度当初35人から508人へと大きく拡大しています。

## 高齢社会の礎にならコープの夕食宅配と見守り協定

高齢者を支える取り組みとして、夕食宅配事業を通じた「見守り活動」に力を入れて取り組んでいます。

2010年4月から夕食宅配事業がスタートし、利用者の7割以上が60歳以上の高齢者です。夕食のお届けだけでなく、地域の見守りとしての役割を期待する声も多数あります。お届け時に体調を崩されていたり、前日お届けした弁当がそのまま箱に入った状態で残っていると、様子をうかがいます。何か様子がおかしいと察知し、早期発見・早期対応につなぐことを目指しています。

2013年3月現在、行政との見守り協定は13自治体と締結でき、現在も、一つでも多くの自治体と協定が締結できるように働きかけを行っています。

2013年2月からは吉野郡大淀町で、3月からは宇陀市菟田野・室生で開始しました。2013年度はさらに配送地域の拡大をすすめます。併せて利用者の要望に応えるため、祝日配達の実現、土曜日・日曜日に利用できる冷凍おかずや、サラダなどのサイドメニューを品揃えし、利用しやすいサービスへ改善をすすめていきます。

また、移動販売車両の導入に向けて研究を行い、2013年度は買い物弱者への支援を具体化していきます。



写真はイメージです。

# ならコープがあって良かったね、 たべる、たいせつの取り組み

## 食育の基本的な考え方

ならコープは、組合員・消費者一人ひとりが食について学び、生産と消費をつなぎ、暮らしを向上させることを商品政策の大きな柱としてすすめてきました。「食育」の範囲は広く、これまで私たちがすすめてきた「商品と食の活動」は、まさに食育活動そのものであったと言えます。これまでの食育活動のもとに、あらためて食育(たべる、たいせつ)の考え方を明確にし、事業活動と組合員によるさまざまな活動を通して「誰もが安心して健康な食生活をおくることができる環境づくり」のために率先して役割を果たしていきます。

- (1) 健康な心身を育むために、一人ひとりが食の知識や選択する判断力を身につけることをたいせつにします。
- (2) 命の源である農畜水産業の実情を学び、自然環境の大切さや命をいただくことの尊さを実感します。
- (3) 食品製造の現場を見て食品のルーツを知り、食の安全に対する意識を高めます。
- (4) 食料問題や自給率などに関心を持ち、グローバルな視点で食を見つめる力を養います。
- (5) 地産地消の拡大や食文化の継承を通して、地域の中の食をたいせつにします。



## 組合員活動を通じた社会貢献

組合員が安心して食生活を送ることができるように、組合員自身が商品の成り立ちや生産、製造過程を実際に見たり、学習したりすること、生産者やお取引先との直接交流を通じて、食についての関心や知識を高めることをめざしています。

商品学習を含むさまざまな取り組みを通じて、食べ物を大切にする気持ち、食事のたいせつさ、栄養バランス、食品のルーツを知る、調理技術を身につけるなど消費者の食に関わるスキルアップにつなげていくことが生協の役割の一つでもあると考えています。





## 2012年度食育の取り組み

### たべる、たいせつフェアの開催

4店舗  
6,065人の  
来店



3つのエリアごとにたべる、たいせつフェアを開催しています。親子で食について考える企画やお取引先の協力で商品試食など多彩に取り組まれました。

### たべる、たいせつキッズクラブの取り組み

67人の  
子どもが  
参加



子どもたちが調理や買い物などで発見したことをレポートにし、そのレポートに返事することで家庭での食育を応援する通信教育型の食育プログラムに取り組んでいます。

### 子ども料理教室の開催

37会場  
393人の  
参加



小学3年生以上を対象に、子どもの自立と食育の観点から、料理教室を開催しています。

### 組合員のつどいの開催(テーマ「ならコープの産直」)

139会場  
2,793人の  
参加



ならコープが創立以来大切にしている、組合員と生産者の信頼で成り立つ産地直結の運動の歴史と取り組みを学びました。

### バケツで稲づくり企画

7組15人の  
参加



種もみから稲が育つまでの生育について学習し、家族でコメを育てる取り組みをすすめています。

### 夏休み生協牛乳のふるさと体験ツアー

6組19人の  
参加



ならコープ産直第1号商品である生協牛乳のふるさと「大山酪農農業協同組合」を訪れ、牛舎、牛乳工場の見学、生産者との交流をおこなっています。

### さつまいも収穫体験

27人の  
参加



地産地消をすすめる会主催で、県内の耕作放棄地を活用して栽培している地元のさつまいもの収穫の親子体験を開催しました。



## 食育サポーター活動

ならコープの組合員の自主的な活動グループとして「食育サポーター」があります。ゲームをしながら食事バランスガイドを学習したり、大和野菜、野菜の花当てクイズなどおとなも子どもと一緒に食について学ぶ機会を広げています。

2013年3月に開催されたJAならけん主催の「地産地消☆食のつどい料理コンテスト」に、大和野菜と大和の食材をふんだんに使った「彩の里YAMATO」を出品しました。応募作品246点の中から、大和野菜を使用した優秀作品に贈られる「奈良県農林部長賞」を受賞しました。

その他、お花見弁当づくり企画や食事バランスガイドゲームや大和野菜のお話の出前などに取り組まれました。



# 安心して暮らすことができる 地域社会づくり

生活者同士が自主、自発的にたすけあい・ささえあい・わかちあい、市民が主人公となる社会。わたしたちは、創立からの協同互助の精神を地域に広げることによってふれあいのあるあたたかい地域コミュニティの創造に向けて、地域の組合員と協同して、環境、福祉、平和、子育て支援などの取り組みを積極的に展開しています。

## ゆたかな地域福祉の実現と協同のあるまちづくり

### ① 社会福祉法人協同福祉会の取り組み

地域福祉の拠点として、1999年に組合員、お取引先、役職員など約5万人から寄せられた3億7,000万円の募金などによって特別養護老人ホームあすなら苑（入居54人/ショートステイ/デイサービス併設/社会福祉法人協同福祉会※1、以下、協同福祉会という）が大和郡山市に建設されました。当生協では、協同福祉会の活動を支えるためコープ福祉募金に取り組んでおり、2012年度は2,510,291円が寄せられ、うち2,160,291円（350,000円はコープたすけあいの会の活動支援に充当）を贈りました。また、多数の組合員が施設でボランティア活動をおこなっています。

協同福祉会では、地域の福祉拠点の建設に注力しており、2012年度はあすならホーム様本を開設しました。また、当生協と本格的な子育て支援として取り組んだ「あすなら保育園」は、開設2年を経て85人の園児を迎えています。



### ② コープたすけあいの会による組合員同士のたすけあい

コープたすけあいの会は、高齢者家庭や産前産後の家庭の家事援助（掃除、洗濯、料理、買物など）、子育て支援（沐浴、見守り、保育園の送迎）などをおこなう組合員の有償ボランティアのグループです。核家族化がすすみ地域のつながりが薄れ、独居高齢者が増えてきた1989年に「いつまでも住み慣れた地域でくらしたい、自立した日々をおくりたい」との組合員の思いから誕生しました。2012年度は、活動内容がよくわかる新しいパンフレットをもとに地域で活動を広げるとともに、子育て支援の利用料金を家事支援と同額にし、産前産後の利用者の増加に結びつきました。

	2012年度	2011年度	2010年度
活動会員（ボランティア）数	164	204	183
利用会員数（人）	184	222	226
賛助会員数（人）	101	118	106
会員合計（人）	449	544	515
活動総時間	8,167.5	7,953	9,235
のべ利用件数（件）	1,193	1,261	1,394

### ③ 高齢者の食事サービス・食事の会

組合員のボランティアが高齢者や会食しながら楽しい一時を過ごす「食事の会」が3店舗で、また高齢者と歌やゲーム、お話し、会食を楽しむ「ミニデイサービス」が1店舗で開催されています。高齢者のご自宅に組合員のボランティアが手づくりのお弁当をお届けする「配食サービス」は5グループで取り組まれており、見守り活動としても喜ばれています。「配食サービス」は前年より1グループ減っており、ボランティア組合員の育成が課題となっています。

### ④ リーディングサービス

組合員のご自宅や班に注文商品をお届けする無店舗事業（こまどり便や共同購入）は、視覚に障がいがある方にとっても便利なシステムです。紙ベースの商品カタログや機関誌を53人の組合員ボランティアが読み上げ、CD-ROMにしてお渡ししています。1993年8月の活動開始から20年を迎え、41人の視覚障がい者の支援をおこなっています。



## たすけあいの心をかたちに



### ① ユニセフ活動

開発途上国や紛争地の子どもと女性を支援するため、1984年にユニセフ募金活動が開始しました。

1996年からは年間のユニセフ募金のうち100万円をラオス指定募金として、ラオスの女性と子どもの自立・教育プログラムを支援しています。当生協では、組合員の自主活動グループ「withユニセフの会」や活動組合員が、ユニセフの活動への理解を広めるために多彩な活動をおこなっています。2012年度は1,069,103円の募金が組合員から寄せられ、ラオス指定募金に100万円、一般募金に69,103円として、日本ユニセフ協会にお届けしました。

【2012年度ユニセフ募金】 (単位:円)

募金総額	1,069,103
(一般募金)	69,103
(ラオス指定募金)	1,000,000
1984年度～2012年度 計	104,710,267

### ② 被爆者救援・平和活動



ユニセフ募金活動とともに、1984年から被爆者救援募金に取り組み、原爆病院や被爆者団体を支援しています。2012年度は374,388円の募金が寄せられました。戦争のない平和な社会は、「くらしの安心」の基本です。2012年度は「核兵器禁止条約の早期実現を求める要請書」に取り組み、組合員から寄せられた署名17,547筆(目録)を広島市松井市長に手渡しました。また、3月には広島平和文化センターのリーパー理事長による「世界の平和と核兵器」をテーマに講演会を実施し60人が参加しました。

親子で戦争と平和を考える「夏休み親子企画ヒロシマの旅」には16人が参加し、被爆者救援募金の贈呈先である広島原爆養護ホーム訪問や原爆被害者相談員の会による碑めぐりと交流会で被爆の実相を体感しました。

【2012年度被爆者救援募金】 (単位:円)

寄贈先	
広島赤十字原爆病院	30,000
日赤長崎原爆病院	30,000
広島原爆被爆者援護事業団	100,000
日本原水爆被害者団体協議会	30,000
原爆被害者相談員の会	184,388
合計	374,388
1984年度～2012年度 計	84,909,227

## 子育て応援と子どもの自立応援



### ① 子育てひろば・保育グループ

かつて地域社会が自然と備えていた「地域ぐるみの子育て」機能が急速に失われつつある中で、当生協では2001年に子育て支援政策を策定し、少子化問題が深刻化する中で、組合員とともにさまざまな子育て活動に取り組んでいます。「子育てひろば」は、子育てのストレスを少しでも緩和できるように、親子が安心して過ごすことができ、親どうしが悩みを打ち明け交流できる場として、組合員のボランティアやNPOに運営を委託しながら5店舗で開催しています。2012年度はのべ685組の親子1,516人が、子育てひろばを訪れました。また、子どもを預けて学習会や催しに参加できるように、組合員の有償ボランティアにより託児・預かり保育も行っています。

### ② 子どもの自立を願って

物事を主体的に考え、すすんで行動できる子どもたちを育てようと、1982年以来子ども記者による「せいきょう子ども新聞“にじのはし”」を発行し続けています。2012年度は小学3年生から6年生までの記者18人が「十津川村で道普請(みちふしん)した!」「自分のからだの事を調べてみよう!(みみなし診療所)」「お坊さんの仕事って?(東大寺)／パン工場に行きました(巽製粉(株))」をテーマに自分たちで取材、執筆して3回発行しました(通算113号)。また、子どもたちが良書に出会う場として、3店舗で子ども文庫(子どもひろば)を開設しており、絵本の貸し出しやおはなし会の開催などを実施しています。



### ③ 事業による子育て応援

無店舗事業の個配のシステム利用料金を「母子手帳発行後子どもが満3歳の誕生日までの期間」免除する「こまどり便配達手数料免除制度(ひよこ割引)」を実施し、小さな子どもから目が離せない一定期間のお買物を支援する制度として、多くの方にご利用いただいています。店舗では、3歳までの子どもがいる家庭、18歳未満の子どもが3人以上いる多子世帯の方を対象に「すくすくパス」を発行して毎月3回の5%割引やお誕生日プレゼントを実施しています。

## 自然・文化・健康づくり

### ① ウォーキングの取り組み

健康づくりの取り組みとして、運動(ウォーキング)を広めるため、「すこやかビューティーウォーキングの企画」を奈良県医療福祉生協と一緒に開催しました。「近鉄大阪線大福駅前～耳成山～みみなし診療所」コースと「近鉄畝傍御陵前駅～天香久山～近鉄耳成駅」コース(2回通算で48人)を実施しました。みみなし診療所では、健康チェック・診療所の見学等を実施し、協同組合間協同による健康づくりに取り組みました。



この他、恒例となっている「コープ歩く会」は年間8回のハイキングを実施、5月と11月には「ときめきウォーク」を開催しました。また年間6回開催される「史跡めぐり」にも多くの組合員が参加しました。

## くらしの安心

### ① 消費者問題

消費者が尊重される社会の実現を求めため、消費者支援機構関西※2(KC's)の賛助会員としてその活動を支援しています。また、「なら消費者ねっと」※3が設立され、記念シンポジウムに阿南久氏(消費者庁長官)「最近の消費者被害の動向や庁の取り組みについての報告」、柿野成美氏(公益財団法人消費者教育支援センター主任研究員)基調講演「地域で進める消費者教育」、県内消費者行政調査報告、なら消費者ねっとと会員によるリレートークがおこなわれ、87人が参加しました。

### ② くらしの法律相談・ライフプランアドバイス

弁護士の協力を得ながら開催している「コープくらしの法律相談」は、2012年度は10回実施し、43人の相談がありました。組合員のライフプランアドバイザーによるくらしの見直し活動は、講演会、ライフプラン講座、個人の保障の見直し相談、お買い物・おこづかいゲーム、乳がん触診体験などに834人が参加しました。

### ③ 医療福祉生協設立支援活動

2008年の生協法改正において、医療と福祉が生協の事業として明記されたことを受け、2010年に全国の医療福祉生協が加盟する日本医療福祉生活協同組合連合会(医福生協連)が発足しました。ならコープは、医福生協連、奈良県生協連※4と連携して、近畿で唯一医療福祉生協のない奈良県において、新しい生協づくりを支援することを決め、専属の担当職員を配置して県内の医療福祉状況の調査や行政や医療・福祉機関などの懇談をすすめました。



急速にすすむ高齢化、生活習慣病など疾病構造の変化、医師・看護師の不足などによって、医療機能は低下してきており、中でも奈良県は自治体の厳しい財政状況もあいまって、地域の医療体制は十分整っているとは言いがたい状況にあります。このような中で、地域の人々が健康、医療、福祉にかかわる問題を、医師をはじめとした医療専門家と協同して解決していく奈良県医療福祉生活協同組合の設立支援を行い、2012年3月31日設立総会が開かれ奈良の地に医療福祉生協が誕生しました。ならコープは奈良県医療福祉生協の事業が早期に安定すること願い、8月の「みみなし診療所」開設にあたり500万円の寄付をおこなっています。

#### ※1 社会福祉法人協同福祉会

本格的な高齢者福祉活動に取り組むため、当生協をはじめ多くの市民が参加して設立された社会福祉法人。特別養護老人ホームあすなら苑をはじめとして、グループホーム、デイサービス、小規模多機能型居宅介護施設、保育園など12施設を運営しています。

#### ※2 特定非営利活動法人 消費者支援機構関西

消費者団体訴訟をはじめ消費者の権利を保障する制度の拡充を目指している適格消費者団体です。当生協では設立(2005年12月)時から、運営を支援しています。

#### ※3 なら消費者ねっと

奈良県生協連や他の消費者団体、弁護士などでつくる任意の消費者団体。奈良県の市町村の消費者行政活性化のための調査や提言等に取り組んでいます。

#### ※4 奈良県生活協同組合連合会

奈良県内の3地域生協、5大学生協、1労働者共済生協、1医療福祉生協が加盟する生協連合会。会員生協相互の連携、交流をはかりながら、行政をはじめ地域の諸団体と協力して「協同精神が息づく安心安全な暮らし・地域づくり」に取り組んでいます。

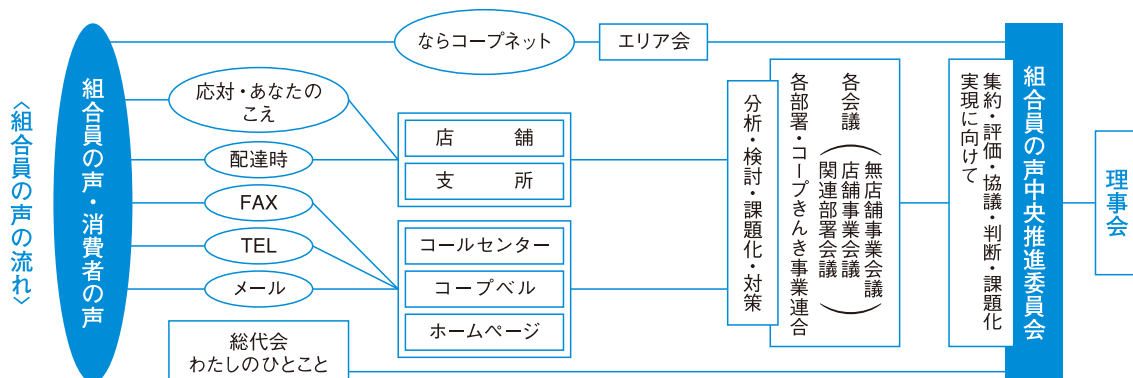
# ステークホルダーとの コミュニケーション

生活協同組合は、事業と組合員のさまざまな活動によって、住みよい地域社会づくりと生活文化の向上をめざしています。組合員の声・意見は、事業や暮らしをよくする活動を行う上で欠くことのできないもので、「声」に込められた思いや願いを事業と活動にいかしつづけることが当生協の使命です。また、組合員のみならず、ステークホルダーとの積極的なコミュニケーションは事業の改革・暮らしをよくする活動の充実に不可欠だと考えています。

## (1) 組合員から寄せられた声・意見を事業と組合員の活動にいかしています

### ① 組合員の声中央推進委員会

専務理事を委員長に、組合員理事、無店舗事業部門、店舗事業部門、人事・総務部門、業務システム部門、事務管理部門、事業企画部門、商品事業部門、組織運営部門、広報部門、品質保証部門の代表で構成し、毎月、組合員や消費者から寄せられる意見、声を全体で共有化するとともに、それぞれの部門では解決できない課題をこの場で検討して、事業の改善や組合員の活動にいかしています。



### ② コープベルとコールセンター

組合員の商品に対する苦情、意見や問合せの窓口として、1983年にコープベルを開設しました。商品や接遇・対応についてのご意見、消費者問題でのご相談、暮らしのお悩み、夕食宅配に関する問い合わせなど、2012年度は1,017件の声が寄せられました。また、無店舗事業の電話でのご注文と配達に関する問い合わせ窓口として2005年にコールセンターを開設し、2012年度は429,375件のお問い合わせをいただきました。

### ③ 組合員のつどい

組合員の学びの場として組合員同士、組合員と職員が交流し、生協活動の場で組合員満足の質を高め、多くの組合員が参加することをめざし、生協の良さを伝え、生協の理解者を増やす場です。また運営を通じて、職員は地域の組合員の要望や関心事をつかみ、そのことを仕事に役立てています。

2012年度は、「ならコープの産直」をテーマに139会場で開催し、2793人の組合員が学び交流しました。



### ④ 2012年の受付状況と改善事例

当生協では、声を聞くためにさまざまなチャンネルを設けています。総代から寄せられた意見をはじめ、日々の業務の中で役職員一人ひとりが「組合員の声と向き合う」ことを大切にしなが、組合員全体の利益を最優先に対処の方法を判断しています。またその改善事例や実現の状況、検討課題は、ホームページや総代会議案書で内容を公開しています。

## 【声の受付状況】

受付部署	件数	特徴など
無店舗事業	785件	共同購入班、荷受ハウス、こまどり便において配達担当職員へお申し出いただいた意見・要望を「あなたの声・私の声」として集約した件数です。1週間以内の回答率は前年の83.3%となり、速やかな回答に努めています。
店舗事業	1,479件	店舗で組合員が直接記入する『あなたの「声」』の集約件数です。総件数は前年比で173.6%（昨年852件）と増えました。おほめの声が275件で前年比176.3%（昨年156件）と件数、構成比とも増加しました。
ホームページ	109件	eメールによる問合せ等の件数です。商品や手続きに関する業務関連の問合せが中心ですが、中には夕食宅配を奈良在住の両親に届けてほしい等の依頼もありました。
あをがき等	5,245件	あをがきを読み投稿いただいた件数です。店舗紹介シリーズの展開でドライブがてら店舗を訪問した時の感想や東日本ボランティアや支援への共感、年々迫る高齢化に伴う老いへの不安などの者の意見が寄せられました。
コープベル	1,017件	コープベル（フリーダイヤル）で集約した件数です。接遇や商品等の苦情は148件受付し、全部署へのお申し出内容の発信、業務改革や改善を推し進めました。喜ばれた事例は40件以上でした。多岐にわたるお申し出に正確、丁寧、迅速な対応を心がけました。
商品苦情	2,723件	組合員からの現品提示（一部商品がない場合もある）があった商品苦情を傾聴し、品質保証部で集約した件数です。2,723件（昨年2,756）で昨年対比98.8%と減少しました。
コールセンター	429,375件	コールセンターで集約した件数です。注文以外のお問合せや連絡等の問合せは前年比+13,515件、106.6%と、夕食宅配の受付窓口となったことや、利用人数の増加などにより増加しました。

## 【2012年度実現・改善事例】

<p><b>(1) 夕食宅配のおかずにもっとボリュームがほしい。野菜も少ないし、もっと充実したおかずがほしい。</b></p> <p>➔ おかずを充実させた「彩菜御膳」の案内を2013年1月21日より開始しました。おかずを8品目で野菜を150g以上使用し、1日に必要な野菜量350gの内の43%を摂取することができます。</p>
<p><b>(2) 忙しい人にも少しの手間ですぐできる商品がほしい。</b></p> <p>➔ 2012年4月1回からレシピ付きで15分以内で調理できる「らくらくお料理バック」の案内を開始しました。カット＆洗浄済み野菜、ソースやタレなど、すぐ使用できる食材をバックしています。</p>
<p><b>(3) COMETをもっと見やすくしてほしい。</b></p> <p>➔ 2013年3月4回からよりすっきり見やすい紙面をめざして、注文番号の色、通常価格の色を変更し、商品名と商品説明文に読みやすい「ユニバーサルデザイン書体」を採用しました。また、食卓が楽しくなるおすすめ商品のアイデア活用術やおつまみレシピなどを紹介しています。</p>
<p><b>(4) スマートフォンでも早く便利にeフレンズから注文できるとよい。</b></p> <p>➔ 2013年3月1回企画から「スマホ注文電卓アプリ」が登場しました。このアプリで案内書を広げながらスマートフォンで簡単に注文できるようになりました。</p>
<p><b>(5) メールクーポンで5%引きを受けたいのですがメールの使い方が分からず受けられない。</b></p> <p>➔ 携帯電話メール機能の利用が少ないと思われる世代も方を対象に、2012年12月から「いこいこシニアデー」として、65歳以上の組合員を対象に毎月15日に5%引きの日を設けました。2013年3月末現在で5,935人の組合員登録がありました。</p>

## (2) 機関誌・ウェブサイト・総代通信・部内報

### ① 機関誌「あをがき」

「あをがき」は、組合員が参加する編集会議で企画を検討して、毎月120,000部発行しています。読者組合員との双方向を重視しており、寄せられた意見や感想のうち、組織として対応すべきものについては組合員の声中央推進委員会で協議・検討しています。

### 【2012年度あをがき特集企画】

4月	奈良県医療福祉生協誕生	10月	組合員のつどい
5月	国際協同組合年	11月	協同福祉会の新たなとりくみ
6月	協同福祉会報告	12月	奈良県医療福祉生協支援
7月	第40回通常総代会報告	1月	「組合員参加・組合員の声」の意味
8月	2011年度環境報告	2月	産地直結運動と地産地消
9月	平和の活動紹介	3月	それぞれの「食」を考える サービス付高齢者向け住宅

### ② ウェブサイト更新状況

ホームページの新着情報（ニュース）は1年間に96回更新し、タイムリーな情報提供をめざしました。

### ③ 総代通信・部内報の発行

当生協では、機関誌のほかに、総代やさまざまな活動に取り組む組合員を対象に、総代通信「COOP NOW」を、当生協の役職員(正規・準正規・嘱託・パート)とならコープグループの社員などを対象に部内報「ならこむ」を毎月発行しています。

#### 【2012年度 COOP NOW 特集企画】

4月	専務理事新年度事業方針	10月	生協のしくみと運営①
5月	各エリア方針	11月	生協のしくみと運営②
6月	環境月間の取り組み	12月	秋の地域別総代会議開催
7月	第40回通常総代会報告	1月	「たべる、たいせつフェア2012」報告
8月	岩手ボランティアバス参加報告	2月	奈良から福島へ、応援メッセージ
9月	組合員のつどい準備中	3月	エリア開発商品

#### 【2012年度ならこむ特集企画】

4月	国際協同組合年	10月	OCR注文書リニューアル
5月	2020年に向けた新環境政策	11月	第10次中期計画
6月	2012年度環境月間	12月	組合員のつどい
7月	亜硝酸塩を使用したウインナー取扱い	1月	第4回 HACCP 研修会報告
8月	創立38年記念学習会報告	2月	2013年度業務機構
9月	福島の子ども保養プロジェクト	3月	組合員のつどいまとめ報告

## (3) ステークホルダーとのコミュニケーション

### ① 行政や地域の方々との協同

誰もが安心して暮らすことができる“まちづくり・奈良県づくり”をすすめるために、行政や他団体とさまざまな分野で協力しています。

#### 【2012年度 行政・他団体の委員等委嘱】

奈良県ユニセフ協会	奈良県節電協議会
(財)奈良県緑化推進協会理事	橿原市環境総合計画策定委員会
奈良県食育推進会議	奈良県環境県民フォーラム10人委員会
奈良県畜産技術センター試験研究外部評価会議	奈良県畜産振興協議会
奈良市食育推進会議	なら健康増進戦略会議
生駒市環境地域協議会	奈良市地球温暖化対策地域協議会 幹事
葛城保健所食育推進事業連絡会議ワーキング部会	大和高田市地球温暖化対策地域協議会
生駒市食育ラウンドテーブル	郡山保健所地域食育推進ネットワーク会議
近畿財務局奈良財政事務所行政モニター(奈良県生協連として)	御所市未来の環境を考える会
奈良県環境審議会	奈良県消費生活審議会(奈良県生協連として)
奈良県住生活基本計画課題検討委員会(奈良県生協連として)	奈良県農政推進会議(奈良県生協連として)
奈良県農業再生協議会(奈良県生協連として)	奈良県循環型社会推進協議会(奈良県生協連として)
なら安全安心住まい・まちづくり協議会(奈良県生協連として)	奈良県男女共同参画県民会議(奈良県生協連として)
奈良県地球温暖化防止活動推進センター(奈良県生協連として)	奈良県こども・子育て応援県民会議(奈良県生協連として)
奈良県特別職報酬等検討委員会	奈良県林業技術開発推進会議(奈良県生協連として)
奈良市環境審議会	防災プラットフォーム連絡会(奈良県生協連として)
奈良県食品安全・安心懇話会	平群町エコチーム
奈良県のさかな選定委員会	国土交通省GIS整備推進検討委員会

### ② コープサークルによる地域コミュニティづくり

地域コミュニティ活性化の一助として、組合員のサークルづくりおよびサークル活動支援のため、毎年コープサークルの登録を募集しています。登録サークルには活動費として年間3,000円の支援と店舗の集会室を無料でお貸ししています。2012年度は575件の登録がありました。



# 人をたいせつにする、働きやすい職場づくり

消費者・組合員・お取引先に「ならコープがあってよかった」と言っていただける組織になるために、一人ひとりの職員が安心して働くことができ、自覚を持って意気高く仕事に臨むことができる職場づくりに取り組んでいます。

## 男女がともにいきいきと働ける職場（男女共同参画の取り組み）

男女がともにいきいきと働くことができる社会づくりめざし、職員が仕事と家庭を両立できるように、多様な視点から男女共同参画に取り組んでいます。2003年に「ならコープ男女共同参画プラン」を策定し、2010年～2012年度は「第3期男女共同参画3ヵ年計画」として取り組みました。

### 第3期男女共同参画3ヵ年計画の重点

- (1) 社会的責任を果たし、信頼される市民セクターの中核として発展するための組織づくりをすすめます。
  - ① 男女ともに生き活きと働き続けられる職場づくりや組織風土の醸成
  - ② 社会の変化や組合員のくらしの願いをつかみ、能力発揮できる職員組織づくり
- (2) 社会に開かれた市民組織として男女共同参画の場を広げます。
  - ① 地域における男女共同参画の「学習の場」づくり
  - ② 地域の「くらしを守り、支援する場」づくり
- (3) 組合員活動分野の垣根を越えた、横断的な取り組みをすすめます。

### 【声の受付状況】

取り組み	到達状況
トップマネジメント	男女共同参画に関する方針の理事会承認、担当役員、マネージャーが参加する男女共同参画ポジティブアクション推進委員会で進捗確認し、男女共同参画の考えと取り組みが組織に浸透してきています。
男女問わず力を発揮できる体制づくり	正規女性職員比率は目標11.5%に対して、2012年度は10.5%（2011年度10.5%）になりました。
	女性の管理職任用は、2012年度は管理職B（課長級）が1人、管理職C（部長級）が1人の計2人（2011年度は管理職B1人）になりました。
仕事と家事の両立支援（ワークライフバランスの推進）	パート・アルバイト職員の離職率は18.8%（目標16%以内）でした。
	育児休業の女性の取得率は100%を維持しています。男性の取得はありませんでしたが、育児を目的に2週間の年次有給休暇の取得がありました。
職場風土の改善	次世代育成支援の一環として子ども参観日を8月に実施し、22人の参加で親子の相互理解やワークライフバランスを考える機会になりました。10月には育児休業者、復職女性職員を対象に働き続けることや復帰への不安解消の為に交流会を実施し、部内報や機関誌を通じて浸透を図りました。子育て支援に関する企画、各種サービス内容をまとめたリーフレットを作成し配布しました。
	管理者研修や職場学習会を実施し、セクハラ・パワハラ防止の啓発をおこないました。
組合員活動分野での意識啓発	産業医（労働安全衛生）の協力を得ながら、「よりよいならコープグループにするためのアンケート」や「職業性ストレスチェック」（中央労働災害防止協会）を実施しました。管理職へのメンタルヘルス研修やメンタルケア外部相談窓口の活用などの実施により休職期間の短縮と予防効果に繋がりました。
	ボランティアグループ「いこーる」と連携して「女性の視点から防災を考える」をテーマにNPO法人神戸まちづくり研究所山副理事長による講演会を実施（参加41名）しました。あをがき3月号では、「夫婦が食に関心を持つこと」「共食」の大切さをお知らせし、意識啓発に取り組みました。また、10月に育児休業者、復職女性職員の交流の場を持ち、不安の解消とならコープで働き続ける展望を持てる機会にしました。



## 一人ひとりが能力を発揮できる職場（組織風土・職員教育）

部内報「ならこむ」は当生協のおよび、子法人である(株)CWS、(株)奈良コープ産業、(株)ハートフルコープならと社会福祉法人協同福祉会の全役職員を対象に、職員相互の学びあい、組織としてのコミュニケーションの充実を編集の柱にして毎月発行しています。組合員満足に向き合い、互いに認め合える組織への変革をめざすために“理事会からの「ありがとう」賞”を決定し、喜ばれた事例やその行動の背景の共有化をはかりました。

また、夏季全体会議と新年全体会議で「震災支援ボランティア活動」や「組合員に喜ばれた事例」、「仕事改革」をテーマに事例の発表会をおこない、取り組みを共有しました。

来店された組合員が、楽しい、買いやすい、身近に感じていただける買い場（組合員から見た売り場のこと）づくりのために、自主的・主体的に考え行動できる研修を実施し、季節を意識した陳列の演出、コトPOPの掲示や料理提案、組合員参加型のイベント等の工夫が生まれました。

## みんなが安心して働ける職場（労働安全衛生の取り組み）

全事業所（16ヵ所）で労働安全衛生委員会を毎月開催し、労災防止、事故防止の活動と毎月の産業医職場巡視等を通じて職場環境の改善をすすめました。また、心の健康づくり計画に基づき、メンタルヘルスセルフケア学習会と職員のストレスチェックを行い、メンタルヘルス不調者に対しては毎月、産業医（精神科医）面談を実施しました。安全衛生活動のリーダー役である第2種衛生管理者資格は、今期、新たに9人が取得し複数資格者は11人になりました。

健康保険組合主催の健康づくり月間には、ウォーキングや食生活、禁煙、減量など、職員それぞれが目標を持って取り組み、参加182人中169人が達成しました。

## 公正・公平な雇用

障害者雇用促進法では障がい者の就業機会の拡大をはかるため一定以上の事業規模をもつ企業などには従業員（社会保険適用者）の2.0%以上の障がい者を雇用することが定められています。当生協では、法律の趣旨に沿って積極的に障がい者雇用を進め、2013年度3月末日の雇用率は3.3%（16人）となりました。法定雇用率を上回って障がい者を雇用していること、ジョブコーチ制度などの様々な制度を活用して、積極的に努力していることが評価され、「平成22年度障害者雇用優良事業所」として知事表彰を受けましたが、さらに障がい者の自立を支援し、奈良県の障がい者雇用創出の一助とするために、特例子会社「(株)ハートフルコープなら」を設立・運営しています。

## 労働組合とのパートナーシップ

正規職員中心の労働組合とパート職員中心の労働組合の2つがあります。必要に応じ執行委員会との協議会を開催し、労使間のコミュニケーションを深めています。また、毎年、労働組合と理事会の共催で働くことをテーマに生協シンポジウムを実施しており、2012年度で23回目になりました。

## 相互扶助精神にもとづくたすけあいの制度

ならコープ、(株)奈良コープ産業、(株)CWS、社会福祉法人協同福祉会、(株)ハートフルコープならで働く役員、正規職員・正社員とそれに準ずる職員・社員732人とならコープのパート職員442人の計1,174人で共済会（コポレット）が運営されています。カフェテリアプラン方式が採用され、相互扶助と会員のニーズを重視した事業が行われています。共済会の運営は、代議員の決定を受けて会長をならコープ理事、副会長をならコープ労働組合とならコープパート労働組合の両執行委員がそれぞれ担っており、福利厚生制度の充実が図られています。

# 環境活動報告

ならコープは、2011年度に環境保全に対する今後の展望をつくり出すために、「2020年に向けたならコープの新たな環境政策」を策定しました。新しい環境政策では、低炭素社会、自然共生社会、循環型社会に基づく持続可能な社会の実現に向けて積極的な役割を果たすことをめざしています。

2012年度は上記の政策に基づく環境負荷の低減と再生可能エネルギーの利用を推進し、組合員とともに環境保全活動を実践してきました。

事業活動においては、無店舗事業でバイオディーゼル燃料車両を新たに5台増車し、30台を稼働させて二酸化炭素の排出量を削減するとともに、店舗事業ではより消費電力が少ないLED照明への転換をはじめとして、省エネルギー機器の導入を通じた環境負荷の少ない事業運営を推進し、事業規模が拡大する中でも7年連続で二酸化炭素排出量が前年を下回る成果を実現できました。

7月には物流センターに従来から設置していた自家発電システム(640kW)に太陽光発電システム(384.5kW)が加わり、ハイブリット発電システム(1MW級)として、大規模災害時の電力崩壊リスクの低減にも役立つ仕組みも構築しました。そして、9月にはならコープグループ子会社である(株)CWSの社屋にも94.5kWの太陽光発電システムが設置され、ならコープグループでより環境負荷の少ない事業運営をおこなっています。

組合員活動においても「一日エコライフ」や「やっぱエコやねん!!」、「コープみんなでエコ2012」など、多くの組合員が家庭での省エネルギー活動の実践に取り組みました。これらは組合員同士の経験や知恵の交流をすすめて、家庭での省エネルギーの取り組みを促進していくことや個々の家庭での取り組みを集め、電力消費を削減し、温暖化ガス削減の大きな力に変えていくことに繋がっています。

奈良県は、世界に誇る有数の歴史的文化遺産と豊かな自然環境に恵まれ、日本人の心のふるさととして親しまれています。この恵まれた環境を保全するとともに、環境にやさしい地域づくりをめざして、2013年度も組合員と一緒に環境保全の取り組みをすすめていくことを決意いたします。

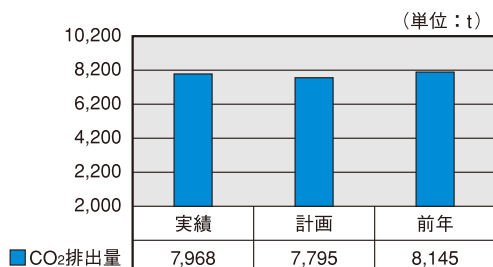
## 1. 事業活動における環境配慮のとりくみ

### (1) 事業活動におけるCO<sub>2</sub>排出量削減のとりくみ

地球規模でCO<sub>2</sub>排出量は増え続けており、世界的な異常気象の多発につながっています。事業体として太陽光発電などの再生可能エネルギーの利用を積極的にすすめ、環境負荷を低減できる低炭素社会への転換に貢献していくことが重要です。事業活動におけるCO<sub>2</sub>排出量は、関西電力の夏の電力不足を緩和するため、物流センターに設置している自家発電装置の運転を強化したことからA重油使用量が87,219ℓ(前年47,631ℓ)と大幅に増加し、CO<sub>2</sub>排出量の増加要因(107t)となりました。しかし、LED照明や省エネルギー設備への換装など、積極的な環境投資の実施と節電のとりくみが奏功し、CO<sub>2</sub>排出量は7,968tに抑制でき、前年から177t削減(対前年2.2%減)することができました。

(日本生協連CO<sub>2</sub>排出系数使用：単位：kg)

項目	実績	計画	前年	計画差	前年差	計画比%	前年比%
電気	6,471,148	6,505,436	6,759,492	-34,288	-288,344	99.5	95.7
A重油	236,363	68,075	129,080	168,288	107,283	347.2	183.1
ガソリン	290,520	307,170	283,649	-16,650	6,872	94.6	102.4
軽油	699,527	638,941	671,465	60,586	28,062	109.5	104.2
LPG燃料	124,951	134,480	159,657	-9,529	-34,706	92.9	78.3
都市ガス	140,030	136,263	136,763	3,767	3,267	102.8	102.4
LPGガス	6,265	5,594	5,870	671	396	112.0	106.7
CO <sub>2</sub> 排出量	7,968,805	7,795,960	8,145,975	172,845	-177,170	102.2	97.8



太陽光発電

	物流センター	(株)CWS	西奈良支所
発電量(kWh)	277,020(kWh)	31,076	25,004
売電計画(kWh)	228,047	28,814	
計画比(%)	111.0	107.9	
CO <sub>2</sub> 削減効果(kg)	124,659	11,747	9,451

\*物流センターは2012年7月、(株)CWSは同年11月から運転開始

- ・物流センターに384.5kWの太陽光発電システムは、7月から発電を開始し、発電量は277,020kWhとなり、全量を関西電力に売却しました。西奈良支所の太陽光発電は、発電量25,004kWh(対前年0.1%減)とほぼ前年と同水準の発電量となり、CO<sub>2</sub>を9.4t削減できました。3月に冷凍倉庫の運転を停止したことにより電気使用量が前年を下回り、太陽光による発電比率は11.0%に高まっています。

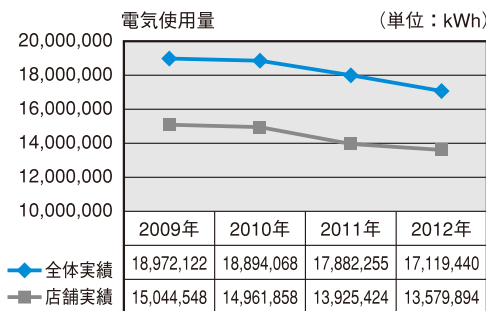
### 太陽光発電システム導入における基本的な考え方

- ・事業体として太陽光発電などの再生可能エネルギーの利用を積極的にすすめ、環境負荷を低減できる低炭素社会への転換に貢献します。
- ・大規模災害から組合員の暮らしを守るために、自立分散型エネルギーシステムの構築をすすめ、災害時等における電力システムの崩壊リスクを低減します。
- ・家庭においても、太陽光発電や蓄電池を配した自立型エネルギーシステムの設置により、防災とCO<sub>2</sub>削減による低炭素社会の実現にも役立つことから、物流センターの太陽光発電システムの設置を契機に、組合員に再生可能エネルギーの利用を呼びかけていきます。

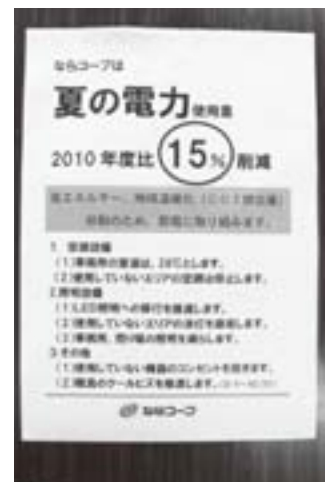
## (2) 電気使用量

(単位：kWh)

	2009年	2010年	2011年	2012年
全体実績	18,972,122	18,894,068	17,882,255	17,119,440
前年比(%)	95.7	99.6	94.6	95.7
店舗実績	15,044,548	14,961,858	13,925,424	13,579,894
前年比(%)	95.5	99.5	93.1	97.5



店舗LED照明とショーケース棚節電



夏季節電運動

- ① 電気使用量の削減は、全店で一部消灯やバックヤード照明の消灯などを継続的におこなうとともに、ディアーズコープいこまとコープ学園前の店内照明をLEDに入れ替えました。これにより、10店舗中、5店舗の店内照明がLED照明に転換できました。本部においても夏のエコスタイル(軽装勤務：ノーネクタイ)を5月から10月末までにするなど、期間を延長して節電の取り組みを推進しました。
- ② 特に2012年度は、夏の電力供給不足が予測されたことを受け、(株)CWSが運営するコールセンターに2kWの蓄電池を設置して計画停電に備えるとともに、夏場の電気使用量を2010年度ピーク電力から15%削減する節電運動に取り組み、7月26%減、8月15%減を実現できました。
- ③ また、電力削減プログラム「見えタロー」を2012年度5店舗に導入し、全店で運用したことにより、デマンド値を前年から11.3%下げることができました。
- ④ ライトダウン・キャンペーンに参加し、6月夏至の日・7月七夕に全店舗の店内照明の一部と看板等の消灯を実施しました。また、11月から3月は、冬場の節電の一つとしてウォームビズに取り組み、空調機の運転時間を短縮するなどの取り組みにより、電力使用量を対前年で5.3%削減しました。
- ⑤ 今後電気使用量の削減は、「2020年に向けた新たな環境政策」に基づき、店舗事業を重点としてLED照明の入れ替えや冷蔵・冷凍ショーケースの入れ替えを計画的にすすめていきます。

### (3) 車両燃料使用量

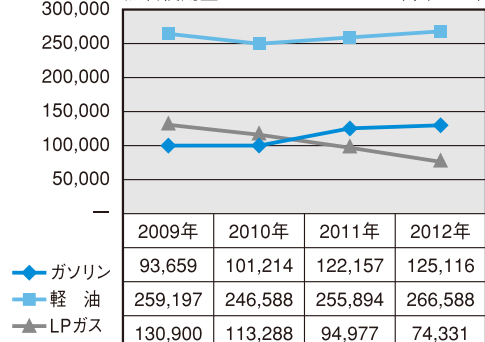
(単位：ℓ)

	2009年	2010年	2010年	2012年
ガソリン	93,659	101,214	122,157	125,116
前年比 (%)	97.7	108.1	120.7	102.4
軽油	259,197	246,588	255,894	266,588
前年比 (%)	97.2	95.1	103.8	104.2
LPガス	130,900	113,288	94,977	74,331
前年比 (%)	82.9	86.6	83.8	78.3

BDF燃料使用量(西奈良支所)

	2009年	2010年	2011年	2012年
BDF燃料使用量(ℓ)	26,187	37,629	45,361	49,437
配達車両台数(台)	15	20	25	30
CO2削減効果(kg)	68,716	98,739	119,026	129,723
前年比 (%)	143.0	143.7	120.6	109.0

燃料使用量 (単位：ℓ)



- ① ガソリン使用量は、無店舗事業のおさそい活動と新規加入者の利用定着の取り組みにより、軽四輪車両の使用が増加し計画を超過しました。また、店舗事業は、コープあったか便を通年で運営したことにより、使用量が前年から2.4%増加しました。
- ② 軽油は、無店舗事業の配達コースの見直しやアイドリングストップ運動などの取り組みをおこなったものの、配達車両の増加と配達ポイント数の増加によって使用量が増えました。また、店舗事業においても農産直売所の集荷拡大が影響し、全体の使用量は対前年4.2%増加しました。
- ③ 西奈良支所のバイオディーゼル燃料(以降BDF)使用車両は、2012年度も5台増車し、合計30台が稼働しています。BDFの使用量は49,437ℓとなり、129tのCO<sub>2</sub>を削減できました。
- ④ LPガスは、LPG車両を6台廃車したことにより、前年から21.7%削減できました。
- ⑤ 無店舗事業は今後も利用者数が増加することが見込まれるため、2013年度もBDF車両の5台増車や配達コースの見直し、アイドリングストップ運動にとりくみCO<sub>2</sub>の削減をすすめていきます。



バイオディーゼル燃料使用車両



西奈良支所バイオディーゼル燃料タンク

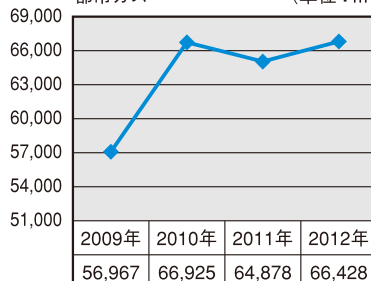
### (4) ガス使用量

(単位：㎡)

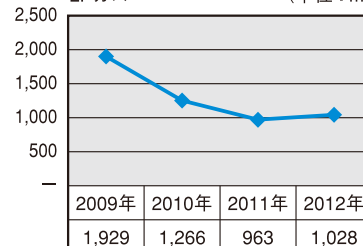
- ① 都市ガスは、店舗の惣菜売り場「O'kans」の配置によって使用量がコープおしくまが対前年11.8%増、ディアーズコープたつたがわが対前年55.1%増と前年を上回りました。
- ② LPガスは、水産の焼き魚の品揃えを強化し、供給を増加させたコープ六条が672㎡(対前年9.7%増：59㎡)となり、全体で前年を超過しました。

	2009年	2010年	2011年	2012年
都市ガス	56,967	66,925	64,878	66,428
前年比 (%)	84.6	117.5	96.9	102.4
LPガス	1,929	1,266	963	1,028
前年比 (%)	238.2	65.6	76.1	106.8

都市ガス (単位：㎡)



LPガス (単位：㎡)

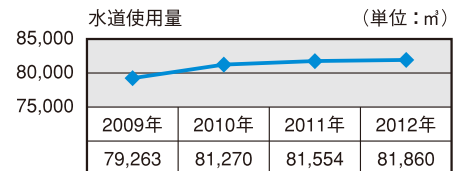


## (5) 水道使用量

① 水道使用量 (81,860m<sup>3</sup>) は、農産加工センターで大型配送トラックの洗車などで使用量が増加したものの、節水器を導入していることもあり、使用量を対前年0.4%増に抑制できました。

(単位: m<sup>3</sup>)

	2009年	2010年	2011年	2012年
全体実績	79,263	81,270	81,554	81,860
前年比 (%)	92.6	102.5	100.4	100.4



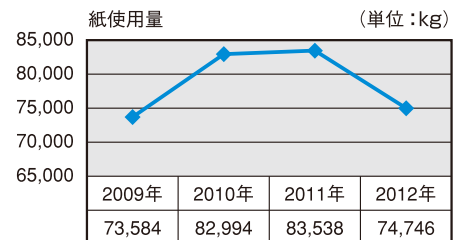
## (6) 紙使用量

① 紙の使用量は、店舗事業の競合店対策やコープあったか便の広報が前年並みで推移する一方、本部の使用量が会議資料等で増加しました。一方、無店舗事業においては、前年度実施したの東日本大震災や紀伊半島大水害の災害支援に関するお知らせが減少したことなどで、内部印刷が対前年16.2%減少しました。紙使用量は、2009年度水準(4年前)まで減少しています。

紙使用量

(単位: kg)

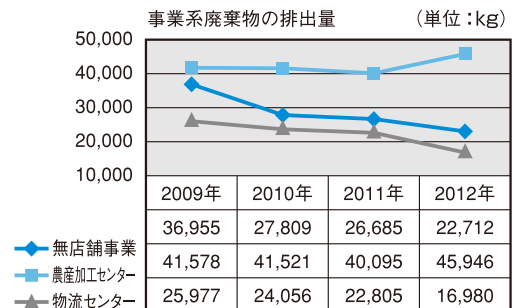
	2009年	2010年	2011年	2012年
全体実績	73,584	82,994	83,538	74,746
前年比 (%)	105.9	112.8	100.7	89.5



## (7) 事業系廃棄物の排出量

(単位: kg)

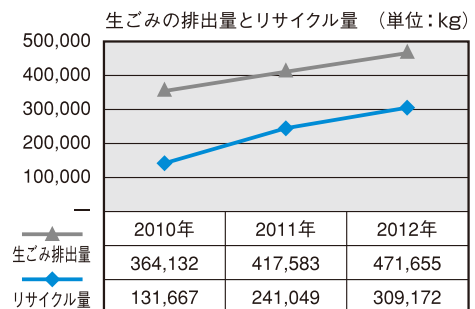
	2009年	2010年	2011年	2012年
無店舗事業	36,955	27,809	26,685	22,712
店舗事業	386,236	360,097	398,713	551,648
農産加工センター	41,578	41,521	40,095	45,946
物流センター	25,977	24,056	22,805	16,980
合計	490,746	453,483	488,298	637,286
前年比 (%)	93.4	92.4	107.7	130.5



生ごみ排出量

(単位: kg)

	2010年度		2011年度		2012年度	
	生ごみ排出量	リサイクル量	生ごみ排出量	リサイクル量	生ごみ排出量	リサイクル量
無店舗事業	8,944		26,685		22,712	
店舗事業	289,611	131,667	327,998	241,049	386,017	309,172
農産加工センター	41,521		40,095		45,946	
物流センター	24,056		22,805		16,980	
合計	364,132	131,667	417,583	241,049	471,655	309,172
リサイクル率 (%)		36.2		57.7		65.6



- ① 事業系廃棄物の排出量は、637,286kg (対前年30.5%増)と前年から148,988kg増加しました。無店舗事業・物流センターで減少させることができたものの、店舗事業は食品リサイクル法に従い、排出量計測を袋個数換算から実測に切り替えたことにより増加しました。農産加工センターは、傷みが生じた農産品の廃棄により残渣が増加しました。
- ② 食品残渣リサイクルは、排出量471t (対前年12.9%増) に対してリサイクル量309t (対前年28.3%増)となり、再生利用実施率65.6% (対前年7.9%増)に向上させることができました。
- ③ 店舗の食品残渣リサイクルは、取引業者の都合により一旦中止していたコープみみなし・コープ真美ヶ丘で再開しました。また、リサイクルの堆肥を使用した野菜の(サムズ生産者)取り扱いを10月から始めました。ディアーズコープいこまでは、お取引先へ食品残渣の最終処理を生駒市が運営する食品リサイクル施設へ搬入し、堆肥化をすすめました。

## (8) 物流センターでの再資源化のとりくみ

(単位:kg)

- ① 物流センターの段ボールリサイクルは、全量をリサイクルしました。段ボール再資源化量は453,860kg(対前年0.1%減)で、ドライ食品分も委託して1年が経過しほぼ前年並みとなりました。
- ② 発泡スチロールは、梱包用として使用している漁箱と、使えなくなった共同購入用の保冷シッパーを16,376kg(対前年2.2%増)減容し、プラスチック原料としてリサイクルしました。
- ③ OCR注文書及び古紙は、店舗を除く各事業所で発生した古紙を古紙業者に116,120kg(対前年7.5%減)引渡し、古紙原料として全量をリサイクルしました。
- ④ PPバンド1,645kg、ベツリング170kgと、全量をリサイクルしました。

	2009年	2010年	2011年	2012年
段ボール	708,650	493,900	454,390	453,860
前年比(%)	72.4	69.7	92.0	99.9
PPバンド	2,937	995	1,625	1,645
前年比(%)	167.8	33.9	163.3	101.2
ベツリング	2,039	154	150	170
前年比(%)	—	7.6	97.4	113.3
発泡スチロール	10,197	16,231	16,020	16,376
前年比(%)	102.1	159.2	98.7	102.2

## (9) 無店舗・店舗のリサイクルの実績

- ① 牛乳パックや空き缶・トレーは、地域でのリサイクル活動や一般の流通業にも拡大していることから、ならコープでの回収量の減少に結びついていると考えられます。PETボトルは夏場の回収が増加しました。
- ② 共同購入カタログの回収量2,738t(対前年1.4%増)と、無店舗事業の利用人数が対前年2.0%増となりほぼ同水準で増加しました。内掛け袋は、共同購入・個配・荷受けハウスお届け時に使用しているポリエチレン袋27,165kg(対前年17.82%減)を回収(回収率26.7%)しました。

(単位:kg)

品目	2009年	2010年	2011年	2012年
牛乳パック	52,970	51,040	48,790	45,800
前年比(%)	94.5	96.4	95.6	93.9
空き缶	64,540	60,890	58,050	57,385
前年比(%)	103.7	94.3	95.3	98.9
PSトレー	33,000	32,582	26,882	22,608
前年比(%)	81.1	98.7	82.5	84.1
PETボトル	101,810	97,143	92,576	100,734
前年比(%)	98.2	95.4	95.3	108.8
卵パック	26,487	29,669	23,391	23,795
前年比(%)	87.2	112.0	78.8	101.7
共同購入カタログ	2,513,490	2,599,175	2,700,830	2,738,710
前年比(%)	98.0	103.4	103.9	101.4
内掛け袋	24,245	30,896	33,035	27,165
前年比(%)	97.0	127.4	106.9	82.2

## (10) 環境に配慮した商品の普及活動

- ① 無店舗事業は「くらしのパートナー」(6/1回~4回)案内書から環境配慮商品を選び利用の促進を担当者ニュースで呼びかけました。
- ② 店舗の環境配慮商品普及は、7アイテムで対前年1%増をめざした結果、総点数11,755点(対前年15.3%増)、PI値(レジ通過1,000人当たりの購買指数:組合員の支持度)で19.50(対前年22.1%増)となりました。店舗別では、9店舗が目標PI値の対前年1%増を達成することができました。
- ③ 県内産原料加工品の取り扱い、農産物直売所の地産地消売り場への変更を5店舗、新規生産者サムズ導入を6店舗、農民連の拡大を3店舗、生産者は508人(前年399人)へと大きく広がりました。また、集荷拡大も2ルート5団体に増加させることができました。店舗はいちじくを奈良県産に切り替え大きく伸長するとともに、農商工連携事業の「金ごま入り生芋こんにゃく」や「ひのひかり炊き立てごはん」「奈良県産大和茶」などが無店舗・店舗事業の両業態で定着しました。



農産物直売所



金ごま入り生芋こんにゃく

## 2. 組合員とともにすすめた環境保全活動

### (1) マイバッグ持参運動と環境保全活動助成の取り組み

- ① ならコープは、創立期から省資源、ごみ減量の取り組みとして買物袋持参運動=マイバッグキャンペーンに取り組んでいます。コープにご加入いただきお店を利用される際には丈夫なお買物袋をお渡しし、省資源・ごみ減量のために使い捨てのレジ袋を削減してきました。近年スーパーマーケットにおいて、レジ袋の有料化が実施されていますが、ならコープでは当初から、レジ袋を利用される際は1枚につき5円の負担をお願いし、「環境資金」としてリサイクルなどの活動に活用してきました。また、2005年度からは奈良県内の環境保全活動に役立てていただくことと、NPOなどに対して環境資金の一部を助成しています。
- ② マイバッグ持参運動は、環境月間・リサイクル月間を主として全店舗で店内放送を中心に呼びかけを実施し、マイバッグ売場を目立たせる独自の飾付けやアピールの強化により、買物袋持参率94.5%(前年94.7%)とほぼ前年レベルの水準を維持できました。今後は地域社会に対してもマイバッグの持参を呼びかけていきます。
- ③ 環境資金を活用した17団体に計80万円の環境保全活動助成をおこないました。2005年度から8年間で125団体、計570万円を助成し、年度末には助成団体報告集にまとめ環境資金(レジ袋代金5円)の活用についても各事業所にパネルを掲示し組合員にお知らせをおこなっています。

## 2012年度 環境保全活動助成団体

	団体名	主な活動地域	申請テーマ・内容
1	NPO法人 エコパートナー21	奈良市	遊休農地の活用 遊休農地を活用して近隣の子どもたちを中心に野菜づくりの喜びを通じて農業が環境保全に果たす役割について理解を深めます。
2	里山の山野草を守る会	桜井市	里山の山野草を守る保全活動 荒廃の一途をたどる里山を保全し、スズランやキンラン、ササユリなどの山野草の自生地を守ります。
3	奈良教育大学ボランティア サポートオフィス	奈良市	あいふた from 奈教プロジェクト ペットボトルキャップのリサイクルを通じて資源の有効活用、ごみの焼却で排出されるCO <sub>2</sub> 発生抑制、リサイクル工場への売却益でポリオワクチンを発展途上国に届けています。
4	奈良・人と自然の会	奈良市	ならやま景観形成事業とニッポンバラタナゴ生育環境整備 水生生物の生息環境を整備し、近畿大学農学部北川博士と協力して奈良県の希少種ニッポンバラタナゴを生育します。
5	山守の会	奈良市	杉・桧林の再生 森林の健全化をはかり、公益的機能を発揮させ国民生活に寄与することを目的として、人口造成林地(杉・桧林)の間伐の実施と間伐材の有効利用を促進します。
6	いこま棚田クラブ	生駒市	生駒市西畑地区の棚田・里山の再生と創造 生駒市西畑地区の棚田は生駒山暗峠の奈良県側に広がり歴史的にも由緒ある地域です。地元棚田を守る会の要請でいこま棚田クラブを設立し、景観整備、援農、自主活動などを行っています。
7	平群里山クラブ	平群町	里山の機能回復をととして、持続可能な里山経営を模索する 里山林の整備活動から1歩進んで、多様な採集活動や生産活動を展開し、現代的な里山の経営を追求します。
8	NPO法人関西 ワンディッシュェイド協会	生駒市	陶磁器の循環系社会の構築 不燃ごみとして埋め立て処分されている陶磁器類を集め、きれいなものは「もったいない陶器市」で再利用を呼びかけ、その他は岐阜県の再生工場に送り、再資源化しています。また再生陶磁器を社会に広める運動を行い、陶磁器の循環系社会の構築をめざしています。
9	サークルおてんとさん	奈良県	講演会「原発やめて自然エネルギーへ」 自然エネルギーを取り込みこれからの暮らしを変えるといわれるスマートグリッドについての講演会と脱原発自然エネルギー利用を方向付けたドイツについて学びます。
10	NPO奈良 ストップ温暖化の会	奈良県	被災地に広陵町の靴下端材で作った布ぞうりを送る 布ぞうり無料講習会を定期的に行い、受講者が編んだ布ぞうりを寄付してもらい、仮設住宅や被災地住宅を訪問するときに持参するために現地スタッフに送ります。
11	NPO法人東洋蝙蝠研究所	奈良県	コウモリ探知機(バットディテクター) 製作教室 コウモリについての誤った知識を払拭し、コウモリと人とがよりよい関係で共生できるようまたそのような自然を持続できるように活動しています。
12	NPO法人 グリーンスポーツ奈良	奈良市	地域のみんなで園庭を芝生化しよう 奈良市立鳥見幼稚園園庭を芝生化し、夏の暑さを和らげ風の涼しさを取り入れ安心して遊べる環境づくりをおこなう。
13	川西町・サークルお花畑	川西町	花いっぱいのみちづくり 地域の環境・美化活動、ごみの減量とリサイクル 花いっぱい運動を呼びかけ、結崎駅前広場、公園などで四季を通じて草花の栽培、樹木の管理、清掃をおこなう。
14	NPO法人 環境市民ネットワーク天理	天理市	天理環境フォーラム2012～自然と生きる、自然との調和を目指して～ ふる里ウォッチング、布留川をきれいにしよう、環境展の開催。
15	秋篠川源流を愛し育てる会	奈良市	秋篠川環境保全と啓発活動 秋篠川をふれあいと、いこいと、ときめきの場へ! 秋篠川の貴重な自然を守り、皆で親しめる川づくりをする。秋篠川クリーンキャンペーン、水質調査の実施。
16	グリーンボランティア西和	生駒郡	里山林整備事業 つる性植物や笹及び低木を除去し、下草刈りを行い健全な里山に誘導し、里山環境保全に対する理解者の拡大を図りたい。
17	自然エネルギー研究会	奈良県	自然エネルギーの利用を広げる 市民共同発電所としての太陽光パネル設置にどのようにしたら多くの市民が関わり、人を巻き込み、資金調達をどうするのか、森林のバイオマスエネルギーを利用できるのかなどを調査研究し、実践への可能性を探りたい。

## (2) 菜の花エコプロジェクトの取り組み

- ① 2006年から進めてきた菜の花エコプロジェクトは地域のNPOと連携して菜の花の栽培に取り組みました。種まきや草引きなどの活動に里山保全の取り組みとあわせて、親子で参加できる年間のプログラムで開催し参加者を広げました。
- ② 菜の花ウォーキング(菜の花まつり)を奈良市奈良阪町(参加者数205人)と生駒市西畑町(参加者数295人)で開催し、合計500人の参加がありました。当日は菜の花エコプロジェクトの案内や菜の花クラブの家族紹介、里山散策、野草の天ぷら、ふるまい豚汁など、多彩な行事を実施しました。
- ③ 菜の花栽培は「菜の花クラブ」メンバーを中心に、奈良市奈良阪町7回、延べ132人、生駒市西畑町8回、延べ116人が参加し、種まきから草引きや施肥作業をおこないました。奈良阪町と西畑町で脱穀後の約69kg(昨年56kg)を収穫できました。
- ④ 6月に(株)レポインターナショナルへ廃食油回収・BDF精製の見学と学習に5人が参加するとともに、3月には菜の花搾油を予定している三重県菜の舎への見学を24人の参加で実施しました。
- ⑤ 組合員の廃食油回収は、全店舗で定期回収を実施し、延べ1,897人(対前年11.5%増:前年度1,702人)の参加で4,617リットル、対前年9.2%増となりました。今後、ボランティア活動の定着をめざすことが課題になります。



生駒西畑町 菜の花種まき

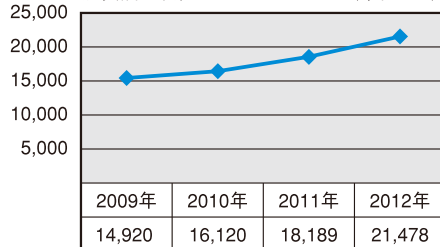


コープ六条 廃食油回収

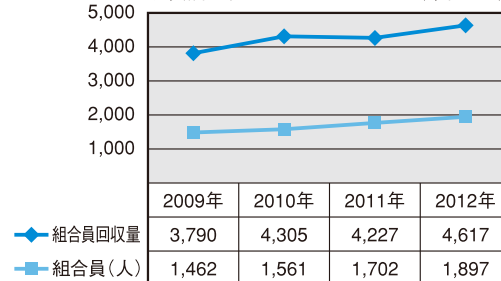
廃食油回収量 (単位:ℓ)

	2009年	2010年	2011年	2012年
全体実績	14,920	16,120	18,189	21,478
前年比(%)	124.6	108.0	112.8	118.1
組合員回収量	3,790	4,305	4,227	4,617
前年比(%)	208.0	113.6	98.2	109.2
組合員(人)	1,462	1,561	1,702	1,897
前年比(%)	182.8	106.8	109.0	111.5

廃食油回収総量 (単位:ℓ)



廃食油回収量 (単位:ℓ)





### (3) 暮らしの見直し活動

- ① 「家庭の節電・省エネ、暮らしの見直し」等の取り組み「一日エコライフ」は、6月2回～7月1回にOCR注文書にてアンケート方式で実施し、244人の参加がありました。この取り組みにより、家庭でのCO<sub>2</sub>削減は約48kgとなりました。
- ② 家庭でできる温暖化防止エコプログラム「やっぱエコやねん!!」は、年間を通して延べ719人が参加し、1,347kgのCO<sub>2</sub>を削減できました。また、最終プログラムには128人が参加し「1日エコライフ(冬)」と「省エネチャレンジ(冬編)」取り組んだ中55人が修了し、約4,165kgのCO<sub>2</sub>削減ができました。寄せられた感想には、家族で色々話し合い楽しみながらエコライフにチャレンジした様子が伺えます。
- ③ 「コープみんなでエコ2012」は、期間中4,224人がチャレンジし、家庭の節電・省エネの取り組みから約1,838kgのCO<sub>2</sub>削減ができました。
- ④ 21年間継続している環境測定活動は、参加モニターに284(前年381人)人の申し込みがあり、250人から測定結果の返却がありました。酸性雨、河川(COD)、大気(NO<sub>2</sub>)について6/21～24に一斉測定を実施しました。



### (4) 行政、他団体との連携

- ① 行政・地域との連携では、奈良県(奈良県環境県民フォーラム・環境フェア、森林整備・奈良県山の日・川の日イベント)・奈良市(地域協議会)・生駒市(地域協議会)・大和高田市(地域協議会)・御所市(未来の環境を考える会)・葛城市(菜の花まつり)・香芝市(環境フェア)等へ出展をおこない、ならコープの環境活動を紹介しました。また、組合員と職員が地域と連携して、河川のクリーンキャンペーン等の清掃活動に参加しました。

### (5) 学習活動

- ① 環境についての学習活動は、「ならコープ環境政策～2020年に向けて私たちは何ができるの?!～」と題し、近畿大学久隆浩教授を講師に開催し、49人の参加がありました。同時にならコープの新環境政策の紙芝居を活用して組合員にお知らせしました。
- ② 11月15日再生可能エネルギー「太陽光発電の設置を考えよう(株)エコテック代表取締役林敏秋氏」を物流センターで開催し、13人の参加がありました。参加者から太陽光発電に興味があり基本的なことが勉強になったと感想がありました。
- ③ 11月27日奈良県生協連主催「市民主導の再生可能エネルギー普及」(経済産業省 調達価格等算定委員和田武氏)に合流した学習会を開催し42人が参加しました。電力買取制度を活かして再生可能エネルギーの普及を学び、地域と市民の主導で普及させる必要があると報告されました。
- ④ 低炭素の地域づくり「戦略会議」に3回参加し、持続可能な低炭素の地域づくりが各地で始まっており、奈良県内においても、県内の自然資源を活用できるエネルギー普及への取り組みをすすめることが報告されました。



## 2012年度環境会計

日本生協連の「生協版環境会計ガイドライン」をもとに、ならコープの活動を、コストおよび効果の観点から集計しました。

### 【環境保全コスト】

(単位：千円)

分類	主な取り組みの内容	投資額	費用額
事業エリア内コスト			
内訳	(1)-1 公害防止コスト	—	2,472
	(1)-2 地球環境保全コスト	128,000	—
	(1)-3 資源循環コスト	—	33,832
上・下流コスト	再商品化委託費用、リサイクル回収費用	—	4,269
管理活動コスト	ISO更新審査費用、教育・訓練費用	—	1,490
調査研究コスト	環境保全活動に関する調査研究	—	1,035
社会活動コスト	アースデー、組合員の環境保全活動支援、行政・他団体等との取り組み	—	7,210
環境損傷対応コスト		—	—

### 【環境保全効果】

事業エリア内コストに対応する効果	事業活動に投入する資源に関する効果	環境保全効果を表す指標		2012年度実績	2011年度との差
		エネルギーの投入	電気 (kWh)	17,119,440	-762,815
		重油 (L)	87,219	39,588	
		ガソリン (L)	125,116	2,959	
		軽油 (L)	266,588	10,694	
		LPG (L)	74,331	-20,646	
		都市ガス (m)	66,428	1,550	
		LPG (m3)	1,028	65	
		水 (m)	81,860	306	
		エネルギー消費によるCO2排出量(kg)	7,968,805	-177,170	
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	廃棄物等の排出(kg)	一般廃棄物	637,286	148,988
		廃棄物リサイクル量(kg)	再生資源ごみ	945,986	7,997
		レジ袋想定削減枚数		5,720,043	-86,152
上・下流コストに対応する効果	事業活動から産出する財・サービスに関する効果	回収リサイクル量(kg)	紙パック回収	45,800	-2,990
			食品トレイ回収	22,608	-4,274
			PETボトル回収	100,734	8,158
			空き缶回収	57,385	-665
			卵パック回収	23,795	404
			内掛袋回収	27,165	-5,870
			商品案内カタログ回収	2,738,710	37,880

### 【環境保全対策に伴う経済効果】

(単位：千円)

	効果の内容	金額
収益	リサイクルによる有価物の売却収入	5,358
	マイバッグ運動によるレジ袋代金	1,664
経費節減	省エネ、省資源による経費の節減	7,997
	発生抑制又はリサイクルに伴う廃棄物処理費の節減	—

※対象機関：  
2012年4月1日～2013年3月31日  
※集計範囲：  
ならコープの環境管理項目

### 3. 環境マネジメントシステムの運用—ISO14001:2004

#### (1) 2012年度に取り組んだ目標に対する結果報告は以下の通りです。

2012年度計画	実績	評価
CO <sub>2</sub> 排出量削減の省資源・省エネルギーの推進 CO <sub>2</sub> 排出総量年間7,795t前年比4.3%削減を目標に推進します。	事業活動でのエネルギー使用による二酸化炭素排出量は、7,968t、対前年2.2%減	○
電気使用量を前年比3.8%の削減を推進します。(17,210,150kWh) 対象：ならコープ全事業所	使用実績17,119,440kWh、対前年4.3%減	○
営業車両を含む車両の使用燃料削減をすすめます。(ガソリン使用量) 対象：ならコープ全事業所	ガソリン使用量実績125,116ℓ、計画比5.47%減、対前年2.4%増	○
配送車両の使用燃料削減をすすめます。(軽油使用量) 対象：ならコープ全事業所	軽油使用量実績266,588ℓ、計画比9.5%増、対前年4.2%増※ならコープ車両は、1台当り2,099ℓと前年2,843ℓから26%削減	○
配送車両の使用燃料削減をすすめます。(LPG使用量) 対象：ならコープ支所	LPG燃料使用量実績74,331ℓ、計画比7.1%減、対前年22.7%減	○
紙の使用量は、前年実績削減をめざします。 対象：ならコープ全事業所	実績74,746kg、対前年10.5%減 8,792kg削減。	○
環境に配慮した商品	今年度9億7,319万円の実績(対前年10.2%増：前年8億8,285万円)	○
地産地消の県内産原料加工品の拡大をめざし、生鮮品と合わせ9億円をめざします。 レジ袋持参運動を推進し、前年度の持参率を維持します。 対象：ならコープ全店舗	環境月間、リサイクル月間に合わせて、レジ袋持参運動を実施しました。持参率94.5%(前年実績94.7%)	○
事業系廃棄物の再資源化 対象：ならコープ全店舗	食品リサイクル率65.6%(前年57.7%)	○
くらしの見直し活動の実践 吉野共生プロジェクト：吉野の森と水を守る活動	「家庭の節電・省エネルギー」など1日エコライフの取り組みを実施しました。大淀町で第2回植樹祭を実施しました。	○
環境保全活動助成	環境保全に取り組む団体への助成金募集と審査・助成を実施しました。17団体(対前年3団体増)	○
環境イベントの実施	アースデー2012 in なら開催(2,600人参加)	○
施設の省エネルギー機器導入ガイドラインに基づき環境配慮をしたエコストアをすすめます。	コープ学園前・DコープいこまにLED照明の入れ替えを実施しました。	○

※軽油使用のならコープ配達車両は、配達委託比率の見直しにより37台増加し、125台となりました。一方、委託車両はコースの減少とBDF車両の導入により33台減少し、90台になっています。

#### (2) 職員の環境教育

- ① 「しごとテキスト2012」を使用し5月、6月を中心にならコープの職員、(株)奈良コープ産業・(株)CWS・業務委託先の従業員・社員を対象に、ならコープグループのマネジメント方針・目標の教育を実施しました。



5月 しごとテキスト学習 本部



9月 ISOサーベイランス

### (3) ISO内部監査の実施

- ① 2012年8月22日～8月24日 ISO内部監査をならコープグループで実施し、所見総数57件（前年56件）、不適合4件（前年5件）、提案53件（前年51件）の所見が出されました。
- ② 環境に関する所見は16件（前年13件）、所見の概要は[力量、教育訓練及び自覚][監視及び測定]において7件の提案が出され、冷蔵・冷凍・ショーケースの温度管理手順などで改善を図りました。

### (4) 定期審査と審査結果

- ① 2012年9月18日～9月19日に財団法人日本科学技術連盟（日科技連）によるサーベイランス（定期審査）を受審しました。審査結果は、組織のマネジメントシステムの適合状況、効果の実施、維持、マネジメントレビュープロセスの能力等、いずれについても問題なく有効であり、審査登録に関する製品及びサービスについて、要求事項に体系的に適合する能力に関しても、組織のマネジメントシステムは、組織的にその手順の適切性においても信頼が持てることと評価いただきました。

## 4. 2012年度に寄せられた主な環境情報

- ① 組合員や職員、周辺住民など外部からの環境に関する意見、要望、苦情や遵法、事故緊急事態の発生における外部とのコミュニケーションについて、寄せられた環境情報の主なものは以下の通りです。

環境情報	主な内容
店舗の運営に対するご意見・ご要望	レジで汁気の出る商品など、ビニール袋に入れてもらっています。再利用し、殆ど捨てることはありません。最近、ビニール袋に入れなくてもよいような品物も入れられるので、再利用が追いつかないくらいです。お客によって要望は違いむづかしいかと思いますが、省エネと言いつながら何とかならないかと感じます。
節電に関する意見・要望	もっと節電してください。自宅ではもっともっと努力しています。照明は昼間半分ぐらいにしてもよいのではないですか。
店内温度管理への意見・要望	冷房が効きすぎていると思います。梅雨明けからお盆ごろは来店しても最適ですが、それ以外の時は寒さ（体の冷え）に気を取られ、商品をゆっくり見て回る気になれません。 もう冬なんだしちょっとぐらい店内をあったかくしてください。今日（12月14日）の試食会の会場はとても寒かったです。もう少し暖かくしてください。
リサイクルへの意見・要望	スチール缶以外の缶類とビン類の回収もがあると非常に助かります！ ペットボトルのキャップ（蓋）ですが今までボランティア回収をして頂いた方が3月末で終わり回収出来なくなります。他のルートでの回収をお願いできないでしょうか？ 今まで行っていたのに止めるのは難しいですので宜しくお願い致します。
商品に対するご意見・ご要望	紙製のスプーンでかき氷やアイスは食べられません。自宅に持ち帰らない時（子どもが車の中で食べる）、とても困ります。4月ですが、まだプラスチックのスプーンはないのでしょうか？
買い物袋へのご意見・要望	エコバッグを忘れて、レジ袋を利用する際、一言、リユースの紙袋やダンボールのことも教えていただき、レジ袋を無理に使わなくて助かりました。
アイドリングへのご意見・要望	駐車場にて、アイドリング禁止にすればよいと思う。特にこれからの夏季にはそうすべきでしょう。現在は一旦停止中でも禁止になっている京都市などの例があるように聞いています。

## 2020年に向けた新たな環境政策(要旨)

### (1) 2020年に向けた環境政策の重点(大切にしたいこと)

- ① 世界的な課題となっている地球温暖化防止対策を事業と活動の両面で推進する。
- ② 奈良の豊かな自然と文化を守り次世代の子どもたちに引き継ぐため、環境にやさしい地域づくりをすすめること。
- ③ 行政やNPO・他団体とのつながりを大切にして環境保全活動を推進する。
- ④ 環境保全活動は、生協理念にかかわるものと位置づけてきた、これまでの環境政策の考え方を、2020年に向けて引き継いでいきます。

<理念>ならコープは、創立以来「よりよい生活は、平和とよりよい環境の中でこそ実現する」と考え、「安心・安全」を求めてさまざまな活動を展開してきました。

地球規模での環境破壊が深刻化する中、私たちはこのかけがえのない地球と奈良の豊かな自然を次世代の子どもたちに引継ぎ、より良い環境を協同の力で実現することが、多くの市民が参加する組織としての責務であると認識し、環境保全活動を生協の理念に関わるものと位置づけ、すべての活動の基本として捉えます。

### (2) 2020年に向け、地域社会に責任を果たす協同組合として低炭素社会の実現に取り組みます。

ならコープの「地球温暖化防止自主行動計画」は、2020年度まで引き続きCO<sub>2</sub>排出削減に積極的に取り組みます。2012年度以降は3年ごとに中期的な計画を策定して進捗管理を実施し、2020年に奈良の地において、環境に関する組合員の声を事業と活動に反映させ、環境経営のトップランナーとして新たな価値の創出をめざします。

- ① 地球温暖化防止は社会共通の課題であり、事業と組合員活動が連携してCO<sub>2</sub>排出削減に取り組みます。
- ② 商品のCO<sub>2</sub>削減に向けて、商品開発や選定、調達の過程の中で、CO<sub>2</sub>排出量を削減する取り組みをすすめます。
- ③ 容器包装などの回収と再生資源の活用など、循環型社会をめざしてリサイクルループの取り組みを拡大します。

### (3) 奈良の豊かな自然と文化を守り次世代の子どもたちに引き継ぐため、環境にやさしい地域づくりをすすめます。

- ① 持続可能な社会への取り組みを広げ、子どもたちや若い世代の積極的な参加をすすめます。
  - 1) 奈良県の70%を占める山間部は、吉野の森と水を育み県全体の豊かな自然と人口集中している奈良盆地に恩恵を与えています。環境保全のために産業、文化、人のつながりも豊かにする「吉野共生プロジェクト」を奈良県全体に広がります。
  - 2) これまで培った買い物袋持参運動は、「地球温暖化対策地域協議会」などとも連携しながら地域全体の取り組みにつなげ社会的運動へと広がります。
  - 3) 環境測定活動は、市民レベルの環境の取り組みとして継続し、よりよいまちづくりにつなげられるものとして、地域や行政と連携した取り組みを検討、推進します。
  - 4) 次世代を担う子どもたちのために、自然環境に配慮したくらしの見直し活動に取り組みます。ならコープ環境政策に基づいた商品・サービスの利用を広げ、省エネルギー・省資源型ライフスタイルへの転換をすすめます。
  - 5) 子どもや若い世代が楽しんで、地球温暖化問題・エネルギー問題、生物多様性などに関心を持って学べるよう、体験・見学・環境保全活動などの取り組みを推進します。
  - 6) 子どもエコクラブなどのグループ・サークル作りなど、環境問題への関心を継続性、主体的なものとして育むことをめざします。
- ② 社会とのネットワーク、社会への積極的な働きかけをすすめます。
  - 1) 地域の生産者や協同組合、行政、企業、NPOが取り組む環境活動の情報収集や関係づくりに努め連携を強めます。
  - 2) 組合員がまちづくりに参画できる「地球温暖化対策地域協議会」に積極的に関わり、環境に関する施策づくりにも関わられるようにします。

### (4) ならコープの温室効果ガス総量削減長期計画

- ① 2020年度の温室効果ガス排出総量数値目標は、日本生協連の「温室効果ガス総量削減長期計画」を基本に2005年度対比30%削減をめざします。

市民生活協同組合ならコープ  
理事長 森 宏之 様

2013年 4月 27日

委員長 松村 佳子 (奈良教育大学特任教授)  
津田八重子 (組合員代表)  
浦澤 和子 (組合員代表)  
紙森 美保 (ならコープ常任理事)  
渡辺 早苗 (ならコープ理事)  
吉田 由香 (ならコープ理事)  
泉 育代 (ならコープ理事)  
吉川 英子 (ならコープ理事)  
小野寺 浩 (㈱システムデザイン)

## 2012年度環境監査報告書

ならコープ環境監査規程第6条、第7条及び第8条に基づき、環境パフォーマンスの有効性及び今後の目指すべき活動等の提案について、独立した立場から監査を実施しましたので、下記の通り報告いたします。

### I. 監査概要

環境監査 2013年4月27日(土) 9:00~15:00

2012年度ならコープ環境事業のまとめの書類監査 被監査者 森理事長・小田専務理事・他12名

### II. 2012年度実績の評価

1. ならコープ全体のCO<sub>2</sub>排出量は、7年連続で削減できており、社会的責任経営の視点から確実に目標を達成していることは高く評価できる。
2. 電気の使用量削減では、積極的な環境投資を行い、ならコープ全10店舗の内、5店舗で照明をLED化し、また太陽光発電を導入して緊急時にはこの電力を活用出来る仕組みづくりなどの取り組みを高く評価したい。
3. 循環型社会への取り組みとして、食品残渣のリサイクル率が65.6%と高い数値になるとともに、残渣を堆肥化し、農産物に利用できるようにしている点を高く評価したい。
4. 菜の花エコプロジェクトの活動では、組合員による廃食油回収が着実に広がっている。また、事業ではBDF燃料使用車両が5台増車され、30台が稼働している。
5. ならコープの事業活動を通じた環境配慮や組合員と共に推進する環境活動により、ならコープの商品とサービスを利用することが、エコな活動となるよう積極的な取り組みを実施している。
6. これらの環境活動を積極的に推進することに努力をされた職員や関連して活動された組合員を高く評価をしたい。

### III. 今後の取り組みにあたっての意見

1. 吉野共生プロジェクトは、奈良を元気にするプロジェクトであり、豊かな自然を生かした多様な取り組みを期待したい。
2. ならコープを利用することが、地産地消や地域の活性化にもつながり「エコな暮らし」となるということを、PRも含め推進して頂きたい。
3. 行政や他団体との活動では、奈良県環境県民フォーラムを始め、地域の諸団体との連携を強め、奈良県全体の環境活動の発展に大きく寄与しており、今後も継続して頂きたい。

環境監査委員会 様

2013年5月13日

市民生活協同組合ならコープ  
常勤理事会

## 環境監査報告書への対応

ならコープの2012年度の環境に関する取り組み全般について、前進面を評価していただくとともに、今後の取り組みにあたってのご意見・ご提言を賜り、深く感謝申し上げます。

ならコープグループとして、引き続き役職員一同をはじめ組合員とともに環境負荷の低減と地球温暖化防止を中心とした持続可能な循環型社会構築の取り組みをすすめて参ります。

また、今回の監査で評価いただいた内容を励みとしつつ、「環境監査報告書」でご指摘頂いた内容については、今後の課題として真摯に受け止め、以下のように対応をご報告申し上げます。

### 1. 吉野共生プロジェクトにおける多彩な取り組みについて

「2020年に向けたならコープの新たな環境政策」に基づき、事業と活動の両面で低炭素社会づくりを推進し、二酸化炭素の排出総量を2020年までに2005年度比で30%削減することが課題となります。

地球温暖化防止の取り組みとあわせて奈良県の優れた自然環境の保全と地場産業振興・地域経済活性化をめざし「吉野共生プロジェクト」をすすめて参ります。具体的には、大淀町、JAならけん、奈良県森林組合連合会との連携による植樹活動や絆の森整備事業を継続し、本年11月には紀伊半島大洪水からの復興をめざして取り組まれる奈良県主催の「紀伊半島大洪水復興推進大会in水源地のむら」に参画し、県南部の地域おこしに貢献して参ります。

また、創立40周年における本部施設の建て替えにおきましては、積極的に吉野材の使用をすすめるとともに、脱原発に向けた再生可能エネルギー事業の確立に向け、地域住民を核とする市民共同発電所の設置に取り組むなど、吉野地域の経済活性化と環境保全の両面で組合員と県民の期待に応え、賛同者を広げる気運を創って参ります。

### 2. ならコープを利用することが「エコな暮らし」になり、PRを推進することについて

「安心・安全な暮らし」は、組合員の最大の願いであり、その願いに応える奈良県内生産物とそれを原料とする商品を「食べる“なら”大和」「使う“なら”大和」商品として育て普及していきます。

店舗の農産物直売所においては、地域の生産者と消費者を結び付ける活動と併せて、地産地消売場の拡大や新規生産者の導入をすすめ、フードマイレージを推進します。

店舗の食品残渣リサイクルからの堆肥を使用した商品取り扱いを増やし、食品リサイクル率を一層推進するとともに、循環型農業の拡大にも取り組みます。また、組合員が、商品を学び、伝えあうことを通じて、よりよい商品づくりをすすめます。

今後も環境保全活動と環境にやさしい事業運営を一体的に進めるとともに、組合員活動と事業の双方で商品の利用が「エコな暮らし」に繋がることを伝えられるよう、PRビデオの作成などに取り組み、県民と組合員に啓発をおこなっていきます。

### 3. 地域の諸団体との連携を強め、奈良県全体の環境活動の発展に大きく寄与していくことについて

環境保全の取り組みは多様化しており、ならコープだけでなく奈良県環境県民フォーラムや奈良県・各行政・地域協議会・環境保全団体をはじめとした繋がりを大切にしながら、継続していきます。

また、「菜の花エコプロジェクト」のように組合員・自治体・環境保全団体で相互理解が進み連携して作り上げてきた取り組みを継続し、今後も環境やくらしの取り組みは、ならコープ内外の団体と地域と連携しながら積極的にすすめていきます。

奈良県南部東部振興の動きと連携したアースデーのように、地域復興につながる取り組みも工夫してすすめていきます。

# 2013年度 CSRレポートを読んで



弁護士  
特定非営利活動法人  
気候ネットワーク代表

浅岡美恵

ならコープは元気だな。本レポートからも、奈良県内に約25万人、世帯の43%に存在感を持つことの責任感が実行力の源泉となっていることが伝わってきます。

3.11を契機として、日本でも、多くの人々の暮らし方への考え方が深層で大きく変わったと思います。最も大切なことは信頼であり、将来にわたる安全であることに気づき、目先の「景気」にとらわれない人々が確実に増加しています。ならコープの試みは、そうした人々の関心や疑問に応えながら、時代の要請に即応した自らの未来を切り開くものといえます。

一方で、時間の経過とともに、震災の記憶も薄れがちですから、市民の被災者への思いを支援に繋げる活動を継続していくことは、とても貴重だと思います。意識が行動となり、その行動を通して組合員の意識がさらに深められていくことでしょう。事故の経験を将来に活かしていくための原点は、今なお、不条理にも移住を余儀なくされている15万もの人々のことを忘れない、ということだと思います。

また、福島原発事故で、温暖化問題は二の次とされたり、忘れ去られた感もありますが、ならコープでは、「地球温暖化」への取組を事業活動の中心に位置づけていることを高く評価したいと思います。特に、LED化を計画的に進めたり、太陽光発電を大規模に、各所に設置計画を立てて実行していることは、ならコープ全体のCO2排出削減を数値的に示していく効果をもつとともに、最新の技術を取り入れた省エネや再生可能エネルギーの可能性を社会に示していく役割もっています。投資力のある生協だからこそ、市民の投資の先陣を果たすことができます。さらに、そうした活動に組合員や地域市民を巻き込んで、設置地域の人々やNGOとの連携、還元を加えて推進していくことで、社会の力になっていくことでしょう。

これからは、こうした取組を、原子力依存からの脱却への道筋としても位置づけていくことを提案したいと思います。原発事故で起きていることは、温暖化の進行によってもたらされる被害と同じとあっていいものです。高潮や巨大な竜巻などは、人々の故郷を奪い、職場を失わせ、健康を損ね、地域の経済基盤も破壊しかねません。さらに気候変動が進行すれば、世界のどこにも逃げ場がなくなっいきます。そして、地球温暖化防止の柱であるエネルギー消費の削減と再生可能エネルギーの拡大は、原子力に依存しないエネルギー需給両面での対策でもあることを、組合員に伝えていくことも重要です。5月10日には、大気中の二酸化炭素濃度が400ppmを越えました。産業革命の前までは280ppmで安定していた地球環境とは異なる時代に向かっていることがわかります。地震を止めることはできませんが、放射能のリスクや地球温暖化の危険は、私たちの選択と行動によって最小化することができます。省エネ、再生可能エネルギーへの転換を、どこでも確実に進めていく先陣になろうとする努力を、今後も一層、高めていただくよう期待しています。



ならコープ「CSRレポート2013」について、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。

「CSRレポート2013」をご覧いただきましてありがとうございました。

ならコープの環境保全活動、次年度のCSRレポートの作成に活かしたいと存じますので、ぜひ下記にご記入のうえ、FAXまたは、このページを裏面の指示に従い封書に仕上げ、郵送にてお送りください。

**FAX : 0742-34-8060**

1. この「CSRレポート2013」をご覧いただいたきっかけは何ですか。該当する番号に○印をお願いします。  
(1) 郵送されてきた (2) 職員向けに配布された (3) 請求して取り寄せた  
(4) その他 ( )

2. この「CSRレポート2013」の内容はわかりやすかったですか。該当する番号に○印をお願いします。  
わかりやすい                      普 通                      わかりにくい  
5                      4                      3                      2                      1

3. この「CSRレポート2013」の内容で、足りない点・改善した方がよい点をお聞かせください。

--

4. その他、ご意見・ご感想をご記入ください。

--

ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下記にもご記入ください。

ご記入いただきました皆様の個人情報、市民生活協同組合ならコープが適切に管理し、今後のCSRレポートの内容の充実および、ならコープの企画等のお知らせに利用します。

お名前		性 別	男 ・ 女	年 齢	歳
住 所	〒				
eメール アドレス		電 話			
職 業	部署・役職：		連絡先		

おそれいりま  
すが、80円切  
手を貼ってご  
投函ください

6 3 0 8 5 0 3

奈良市恋の窪一丁目2番2号

市民生活協同組合ならコープ

広報・経営管理部 行

のりしろ

のりしろ

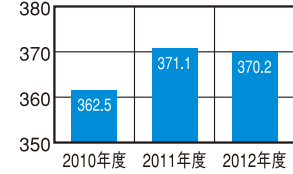
【2012年度決算概況】

	2012年度実績(千円)	前年比(%)
供給高	37,024,495	99.8
供給剰余金	9,139,565	98.1
その他事業収入	1,382,144	102.3
事業総剰余金	10,521,710	98.6
事業経費	9,994,575	98.2
人件費	3,659,783	100.2
物件費	6,334,791	97.1
事業剰余金	527,135	108.0
事業外収益	164,839	104.3
事業外費用	28,363	150.5
経営剰余金	663,611	105.8

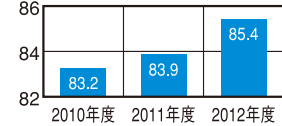
【組織概要】

名称	市民生活協同組合ならコープ	
創立年月日	1975年7月25日	
本部	〒630-8503 奈良市恋の窪一丁目2番2号	
組合員数	248,687人(世帯) 県内加入率 43.3%	
出資金	8,544,507千円 一人当たり出資金 34,358円	
職員数	正規 335人 定時 1,292人	
子会社	(株)奈良コープ産業 (株)CWS (株)ハートフルコープなら	
関与法人	社会福祉法人協同福祉会	
加盟団体	日本生活協同組合連合会 日本コープ共済生活協同組合連合会 奈良県生活協同組合連合会 生活協同組合連合会コープきんぎ事業連合	
事業所	本部	1
	支所	5
	店舗	10
	物流センター	1
	農産加工センター・店舗物流	1

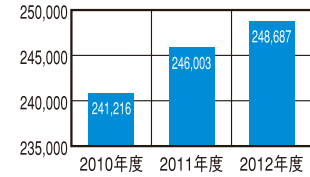
【供給高の推移】 (単位: 億円)



【出資金の推移】 (単位: 億円)



【組合員数の推移】 (単位: 人)

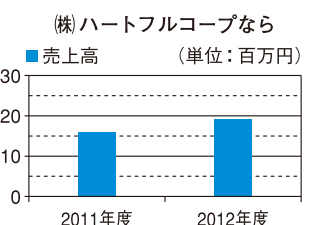
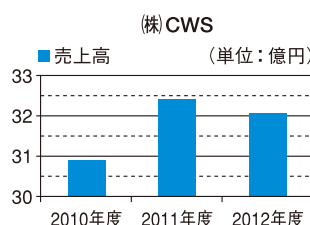
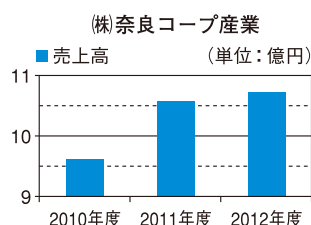


【子法人の概要】

会社名	株式会社奈良コープ産業	株式会社CWS	株式会社ハートフルコープなら	
設立年月日	1986年3月7日	2000年7月19日	2011年7月6日	
資本金	資本金	6,000万円	3,550万円	1,000万円
	生協の出資額	4,500万円	3,500万円	1,000万円
主たる事業所(事務所)の所在地	天理市	奈良市	磯城郡田原本町	
事業内容	寿司・惣菜製造販売、ならコープ店舗における惣菜販売(みよしの)、水産品の集配加工、損害保険代理店・生命保険の募集 シャトレーゼ工場直売店経営	電話受注代行、清掃、清掃用具及び用品等の販売、リース車両管理、建物保守・管理、警備、個配代行、一般貨物自動車運送事業及び貨物軽自動車運送事業、貨物利用運送事業、物流センター・農産加工センター・配送センターの運営及び管理の受託業務	農産物の選別・計量・発送及び配送、各種備品の洗浄、ダイレクトメールの企画・製作及び発送代行、印刷、宅配、段ボール・古紙・ペットボトル・空き缶・発泡スチロール等包装容器及び堆肥並びに廃油等のリサイクル、清涼飲料水の製造・販売・発送・配送、農産物・食料品及び日用雑貨の販売・発送・配送農業機械の販売・斡旋、農産物の生産、産業廃棄物、物収集運搬、産業廃棄物処理	

損益の状況(単位: 千円)

科目/決算期間	2012年4月1日～2013年3月31日	2012年4月1日～2013年3月31日	2012年4月1日～2013年3月31日
売上高	1,073,859	3,203,589	19,446
売上総利益	588,818	2,025,883	19,446
営業利益	27,520	11,971	380
経常利益	25,584	25,732	745
法人税等	3,873	492	2,644
法人税等調整額	4,503	11,742	—
当期純利益(又は損失)	17,044	7,497	6,077





## 吉野共生 プロジェクト



ならコープは、JAならけん、奈良県森林組合連合会と共に  
吉野の森と水を守る取り組みをすすめています。

---

### 市民生活協同組合 **ならコープ**

広報・経営管理部

奈良市恋の窪 一丁目2番2号

TEL 0742-33-9516

ホームページ [www.naracoop.or.jp](http://www.naracoop.or.jp)



国際規格であるISO9001:2008品質マネジメントシステム及び、  
ISO14001:2004環境マネジメントシステムの認証を取得しています。